

昭和61年度

「特別案件調査団」

パラグアイ, アルゼンティン, ブラジル

調査報告書

昭和62年6月

国際協力事業団

研修事業部

昭和 61 年度

「特別案件調査団」

パラグアイ, アルゼンティン, ブラジル
調査報告書

JICA LIBRARY

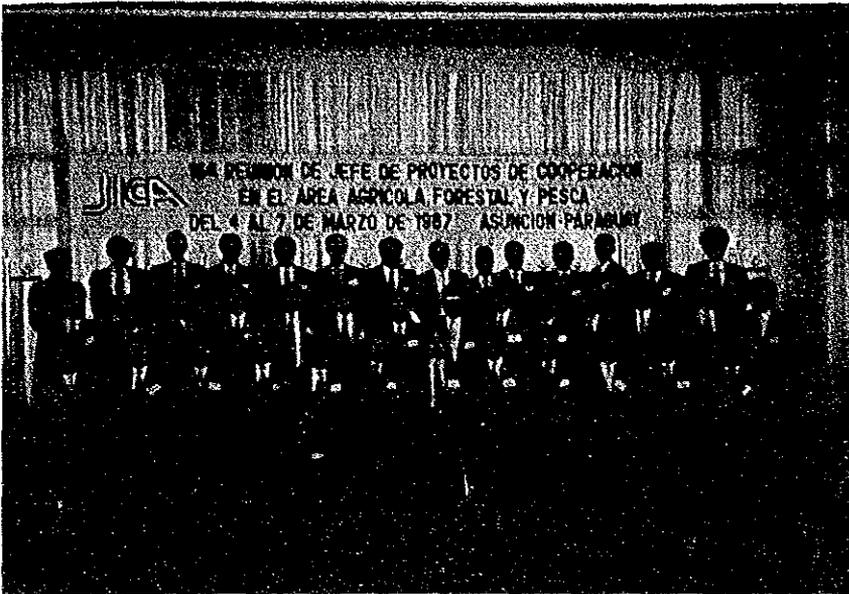


1040424[2]

昭和 62 年 6 月

国際協力事業団
研修事業部

国際協力事業団		
受入 月日	'87.10.21	708
登録 No.	16954	36
		TAD



▲第16回農林水産業協力

プロジェクトリーダー会議出席者

▲パラグアイ国婦国研修員

同窓会役員との懇談会にて

(西野パラグアイ事務所長、飯島
研修事業部次長の間居るのが

会長のMr. Jalei, Garcia Rodriguez)





▲パラグアイ国婦国研修員同窓会役員の方々



▲アルゼンティン国婦国研修員同窓会

会長 Mr. Edgardo M. GelatiよりJICAに対し、6項目の要請があった。引き続き飯島研修事業部次長が今後の同窓会事業の方向づけを説明。



▲打合わせ後のレセプションにはブエノス・アイレス近郊から70余名の研修員の出席があった。



▲ 5名の帰国研修員は日本での研修のすばらしさを語った。



▲アルゼンティン国鉄中央研修センターで帰国研修員との打合わせを終えて。



▲ブラジル・リオ・デ・ジャネイロ地区帰国研修員同窓会会長 Mr.Alberto Honsi
同役員 Mr.Namio Miyakoshi
同窓会会報を発行したいと熱っぽく語っていたが、先日、すばらしい第1号が JICA 本部に送られて来た。

序 文

国際協力事業団が実施している研修員受入事業による来日研修員の数は、既に6万余名を数え、途上国における技術移転に「人造り」という側面から大きく貢献している。彼らは同時に日本との親善友好の絆の担い手でもある。

研修事業部では、技術研修の効果的な推進を目的とし、先般、3月、パラグアイ国にて実施された第16回農林水産業協力プロジェクトリーダー会議に出席し、研修員受入れの立場から、各プロジェクトの要望、問題点等につき調査した。

他方、昨年10月、東京で実施された帰国研修員同窓会代表セミナーにおいて指摘されたように、帰国研修員同窓会の担う役割が大きくなりつつある昨今、同窓会に対するさらなる支援も期待されている。このような背景の中で、今回の調査団は、パラグアイ、アルゼンティンおよびブラジル（リオ・デ・ジャネイロ）の各国において同窓会会長及び役員と今後の活動について打合せを実施した。本報告書は、これらの会議打合せの内容をまとめたものである。

終りに本調査団の派遣及び現地における調査活動に御協力いただいた関係各位に、心から謝意を表する次第である。

昭和62年6月

国際協力事業団

研修事業部長 岡部和夫

目 次

序 文

I 調査団派遣の経緯と目的	1
II 団員構成及び調査期間	2
III 調査日程	3
IV 主要面会者リスト	4
1. パラグァイ	4
2. アルゼンティン	4
3. ブラジル（リオ・デ・ジャネイロ）	4
V 第1.6回農林水産業協力プロジェクト	
リーダー会議	6
1. 会議概要	6
2. 会議日程	6
3. 出席者名簿	7
(1) プロジェクトリーダー	7
(2) 来賓	8
(3) 各省代表	8
(4) JICA	8
4. 会議内容のあらまし	9
5. 現地新聞報道記事	13
VI パラグァイ国帰国研修員同窓会役員との打合せ	15
1. 同窓会概要	15
2. 同窓会の主な活動	15
3. 打合せ概要	15
VII アスンシオン市中央食品卸売市場改善プロジェクト視察	21
1. プロジェクト概要	21
2. 視察概要	21
VIII アルゼンティン国帰国研修員同窓会役員との打合せ	23

1. 同窓会概要	23
2. 同窓会の主な活動	23
3. 打合せ概要	23
IX アルゼンティン国鉄中央研修センター帰国研修員との打合せ	25
1. プロジェクト概要	25
2. 打合せ概要	27
X ブラジル国（リオ・デ・ジャネイロ）帰国研修員同窓会役員 との打合せ	30
1. 同窓会概要	30
2. 同窓会の主な活動	30
3. 打合せ概要	30
別添： 持ち帰り資料	32

I 調査団派遣の経緯と目的

毎年、農林水産業にかかる技術協力プロジェクトにつき、各プロジェクトの現状、問題点对応等の検討及び相互に意見の交換を行ない農林水産技術協力の円滑実施を目的としてプロジェクトリーダー会議を開催している。本年度は第16回を数え、従来通り地域を大きく二つに分け、インドネシア国ジャカルタ市及びパラグアイ国アスンシオン市の2ヶ所において行われた。アスンシオン市において開催された中南米、中近東アフリカ地域のプロジェクトリーダー会議へ、プロジェクトのカウンターパート受入れは、「人造り」の見地より、効果的研修が望まれることから研修事業部より調査団を編成し同会議に出席せしめ、カウンターパートの受入れにかかる諸問題の指摘及び62年度カウンターパート受入計画策定にかかるリーダーからの要望を調査することとした。

また、研修員受入事業においては帰国研修員総数が、既に6万余名を数え、彼ら自身が日本と母国との友好の「かけ橋」となる人的資源であることから帰国研修員自身の組織である「同窓会」活動のはたす役割が大きくなってきている。昭61年10月、東京国際センター(TIC)にて実施された帰国研修員同窓会代表者セミナーにおいて各国同窓会長より指摘があったように、JICAのさらなる同窓会支援体制強化が望まれるところ今後の同窓会活動について訪問国三国(パラグアイアルゼンティン、ブラジル国リオ・デ・ジャネイロ地区)において同窓会会長及び役員と面会し活動状況調査・打合せを実施することとした。

併せてアルゼンティン国鉄中央研修センタープロジェクトを視察しカウンターパート帰国研修員の評価調査及び62年度実施プロジェクトカウンターパート受入予定研修員との事前打合せを実施することとした。

II 団員構成及び調査期間

(1) 団員

氏名	担当業務	所属
飯島 正孝 (IIJIMA MASATAKA)	団長	JICA 研修事業部次長
武田 浩幸 (TAKEDA HIROYUKI)	業務調査	研修事業部 研修第一課

(2) 調査期間

昭62年3月2日から昭62年3月15日(14日間)

III 調査日程

日順	月日	曜日	行 程	交通手段	宿泊地	甲・甲・乙地等別		調 査 内 容
						日当	宿泊	
	3/ 2	月	JL064 東京→	JL064	機 中			
	3	火	RG902 事務所 →リオ リオ→アスンシオン 表敬	RG902	アスン シオン			事務所にて打合せ
	4	水	第16回農林水産業 プロジェクトリーダー会議					C/P の受入れに係る諸問題の指摘 及び62年度C/P 受入計画策定にか かる要望を調査、同窓会活動にか かる要望調査
	5	木	全体会議 同窓会役員との懇談会					
	6	金	「特別議題」					上に同じ
	7	土	アスンシオン アスンシオン→ 中央卸売市場視察 エンカルナシオン	車	エンカル ナシオン			C/P 帰国研修員評価調査及び受入 事前協議
	8	日	イタプア製油投資KK エンカルナシオン→ アスンシオン	車	アスン シオン			イタプア製油投資KK視察
	9	月	AR705 大使館・事務所 アスンシオン→ブエノス 表敬	AR905	ブエノス アイレス			大使館・事務所にて打合せ
	10	火	同窓会役員との懇談及びレセプション					同窓会活動にかかる要望調査
	11	水	国鉄中央研修センタープロジェクト視察					C/P 帰国研修員評価調査及び受入 事前協議
	12	木	SC931 ブエノス→リオ リオ事務所表敬		リ オ			同窓会活動にかかる要望調査
	13	金	同窓会、役員との打合せ リオ→	JL063	機 中			
	14	土	JL063 日付変更線通過		機 中			
	15	日	→東京					

IV 主要面会者リスト

1. パラグアイ国

Mr. Jalei Garcia パラグアイ国婦国研修員同窓会会長、他役員12名

在パラグアイ日本大使館

坂本 重太郎 日本国大使

高井 正夫 書記官

JICA

西野 世界 パラグアイ事務所長 他

田中 諺吉 日本イタプア製油投資K. K. 社長 他

プロジェクトリーダー

第16回農林水産協力プロジェクトリーダー

(中南米、中近東、アフリカ地域)

(会議概要の別表のとおり)

2. アルゼンティン国

Mr. Edgardo M. Gelati アルゼンティン国婦国研修員同窓会会長他
役員16名

Mr. Angel Nestor Miccelli アルゼンティン国鉄人材開発調査局長

Mr. Carlos R.A. Duca アルゼンティン国鉄中央研修センター所長

Mr. Jose Antonio Dominiquez 国鉄教官

Mr. Guillermo Oscarl Fox 国鉄教官

Mr. Fabian Andres Rossi 国鉄教官

在アルゼンティン日本大使館

高木 南海雄 参事官

三輪 能弘 三等書記官

JICA

福田 正記 アルゼンティン事務所長他

プロジェクトリーダー

上野 勝禧 アルゼンティン国鉄中央研修センタープロ
ジェクトリーダー

3. ブラジル (リオ・デ・ジャネイロ)

Mr. Alberto Homs

ブラジル・リオ地区帰国研修員同窓会長

Mr. Namio Miyakoshi

同役員

JICA

加茂 富士郎

リオ・デ・ジャネイロ事務所長他

V 第16回農林水産業協力プロジェクトリーダー会議

1. 会議概要

農林水産事業協力プロジェクトリーダー会議は、農林水産業にかかる技術協力プロジェクトにつき、各プロジェクトの現状、問題点及び対応等の検討並びに相互の意見交換を通じ農林水産業技術協力事業の円滑かつ効果的な推進に資することを目的として昭和46年度以降毎年度開催され、本年で第16回を数えるに至っている。

今年度も昨年と同様、開催地を2ヶ所に分け、アジア太平洋地域についてはジャカルタ、中南米、中近東、アフリカ地域については、アスンシオンにおいて、それぞれ昭和62年2月18日～同年2月24日、昭和62年3月4日～3月10日の間実施された。

以下、本調査団が出席した中南米、中近東、アフリカ地域について会議内容の概要を研修員受入事業の関連より報告する。

2. 会議日程 (本調査団は3月7日まで同行)

期 日	時 間	議 事 等	備 考
3/4 (水)	10:00 ~	<開 会 式> ・出席者紹介、スケジュール説明 ・主催者あいさつ ・来賓あいさつ (日本大使館、外務省、農水省、文部省) ・JICA事務所長あいさつ	
	11:30 ~45	・記念撮影	
	12:00	(昼 食)	
	13:30 ~	<全 休 会 議> ・61年度事業実績と62年度予算の概要 ・62年度事業実施方針 ・今後の国際協力について (各省関係者) ・JICA関係各部の説明 (技管課、調達部、研修事業部) ・質疑応答	
	17:00 ~	・事務連絡	
5 (木)	9:00 ~ 17:00	<全 休 会 議> ・プロジェクトの現状と問題点 (各リーダーよりの報告) ・事務連絡	
6	9:00 ~ 17:00	・『特別議題』討議 ・事務連絡	

期 日	時 間	議 事 等	備 考
3/7 (土)	9:00 ~	<閉 会 式> ・総括質疑 ・各省コメント (日本大使館、外務省、農水省、文部省) ・JICA事務所長あいさつ ・主催者あいさつ ・事務連絡	
	12:00	<閉 会>	
	14:00 ~ 17:00	<個 別 協 議>	
8 (月)		<現 地 視 察> アスンシオン → ストロエスネル パラグアイ農業総合試験場	
9 (日)		ストロエスネル → エンカルナシオン CRIA、CEMA、CEDEFEO	
10 (火)		エンカルナシオン → アスンシオン	
11 (水)		帰 任	

3. 出席者名簿

(1) プロジェクトリーダー

No	プロジェクト名	協力期間	リーダー等氏名	備 考
<中 南 米>				
1	アルゼンチン国立漁業学校	59. 4. 1~64. 3.31	リ ー ダ ー	森 敬四郎
2	チリ水産養殖	54.10. 2~62.10. 2	〃	長沢 有晃
3	チリ沿岸漁業訓練	58. 4. 1~63. 3.31	〃	山田 諒
4	ホンジュラス農業開発センター	58. 7. 1~63. 6.30	〃	天野 斯文
5	メキシコ家畜衛生センター	56. 6. 1~63. 5.31	リーダー代行	古内 進
6	パラグアイ農業開発	54. 3.31~62. 3.15	リ ー ダ ー	加藤 一郎
7	〃	〃	〃	志水 貞夫
8	パラグアイ家畜繁殖	57.12. 3~62.12. 2	〃	柏原 孝夫
9	ペルー野菜生産技術センター	61. 4. 7~66. 4. 6	〃	寺神戸 曠
10	ウルグアイ果樹研究	61. 7.28~66. 7.27	〃	梁取 作次
<中 近 東>				
1	エジプト米作機械化	56. 8.18~65. 3.31	〃	石原 修二
2	モロッコ漁業訓練	62. 1.19~67. 1.18	〃	赤岡 民夫
<アフリカ>				
1	ケニア林業育苗訓練	60.11.26~62.11.25	チーフアド バイザー	渡辺 桂
2	ケニア園芸開発	60.12. 4~65.12. 3	リ ー ダ ー	平間 正治
3	タンザニア・キリマンジャロ農開	61. 3.13~66. 3.12	〃	井上 淳二
4	ザンビア大学獣医学部	60. 1.22~65. 1.21	〃	藤本 胖
<オブザーバー>				
1	ペルー・アマゾン林業	56.10. 9~66.10. 8	〃	小池 秀夫
2	パラグアイ・アスンシオン市場改善	56.12. 7~62.12. 6	〃	清野 正善
3	パラグアイ農業開発	54. 3.31~62. 3.15	総括調整	吉田 貞吉

(2) 来賓

在パラグアイ・日本大使館

(3) 各省代表

上西 淳三 外務省経済協力局技術協力課課長補佐
菊池 雅夫 農林水産省経済局国際部国際協力課海外技術協力室長
平井富喜雄 文部省学術国際局国際企画課海外協力係長

(4) JICA

(本 部)

●農林三部

土屋 晴男 農林水産計画調査部長
松本 宜彦 農業開発協力部農業開発課長
林 久晴 林業水産開発協力部林業開発課長
栗城俊之助 農業開発協力部畜産開発課長
尾島 起己 林業水産開発協力部水産業技術協力室長
山縣 正安 農林水産計画調査部農林水産計画課課長代理
川上 徹 農業開発協力部農業技術協力課課長代理
佐藤 節子 農林水産計画調査部農林水産計画課職員

●研修事業部

飯島 正孝 研修事業部次長
武田 浩幸 研修事業部研修第一課職員

●調 達 部

亀田 育男 調達部機材第一課長

●企 画 部

長瀬 勲 企画部技術者管理課課長代理

(パラグアイ事務所)

西野 世界 事務所長
中島 伸克 業務第二課長 他

4. 会議内容のあらまし

<第1日目>

(開会式)

開会式は松本農開課長の司会によって進められ、出席者全員の紹介、会議スケジュールの説明の後、主催者側を代表して土屋農計部長の挨拶があり、次いで在パラグアイ国日本大使館坂本大使、外務省上西技協課長補佐、農水省菊地国協課海外技術協力室長、文部省平井国際企画課海外協力係長、西野パラグアイ事務所長からそれぞれ挨拶があった。

(全体会議(1))

同日午後の全体会議においては、土屋農計部長より、「農林業協力をめぐる諸状勢と課題」及び「昭和61年度事業実績と62年度予算の概要」について、「昭和62年度事業実施方針」について松本農開課長及び林林開課長よりそれぞれ説明があった。

また外務省上西技協課長補佐、農林省菊地国協課海外技術協力室長より「今後の国際協力」について、それぞれの立場から報告があった。

同日、最後にJICA関係部の説明があり、企画部技官課、調達部に加え研修事業部から説明を行った。

研修事業部からは、昭和62年度研修員受入事業予算、昭和61年度研修員受入計画の他、特にプロジェクトと関わりの深いカウンターパートの受入れについて次のとおり報告した。

報告：

「カウンターパートの受入れについて」

- (1) 研修員受入事業の中で最重要視しているカウンターパートの受入れについては、昭和61年度944人のうち農林水産業プロジェクト関連は計166人を予定している。944人に対する受入れ最終着地予想は30人減の914人程度を見込んでいる。
- (2) カウンターパートの受入人数は、昭和57年度以降年間800人台の受入れを保持しているが、昭和56年度は600人台、昭和55年度は500人台であった。プロジェクトのカウンターパートの割当てについては、受入れの実績をベースに増やしてきている。
- (3) カウンターパートの受入れについては、プロジェクトリーダーをはじめ、各専門家、在外公館をはじめ関係者の協力によって昭和59年度より政府予算が決定する前に、前年度に於いて割当て枠を通知するという早期通報制度を導入した。昭和60年度受入予定分については、カウンターパート受入予定数460人/909人(50%相当分)を59年12月に早期通報し、昭和61年度受入予定分については、565人/944人(60%相当分)を60年に早期通報した。昭和62年度については、カウンターパート受入予定者数の70%に相当する690人を61年12月中旬に早期通報済みである。
- (4) 昭和58年度までは、全体の5割以上が第4四半期の1～3月に集中し、カウンターパート

研修に支障が生じたのだが、昭和59年度以降は早期通報の結果によって要請書が上半期に殺到し、受入れが平均的になり大幅改善がみられた。

- (5) 早期通報のメリットは、第一に研修員の受入れを第4四半期になることを防ぐこと。(年度末は受入機関側も多忙であり、研修員にとっても気候的に支障をきたす。)第二に受入れを計画的に実施できるのみならず予算の効率執行を図ることができる。第三に、要請書の遅着を防ぐことができる等、研修内容の改善が期待される。
- (6) 農林水産業カウンターパート研修においては、昭和58年度よりカウンターパート合同研修を実施しており、今年度も灌漑コース及び農業普及コースを設け、各カウンターパートをまとめて研修実施せしめ好評であった。

また第三国研修、昭和61年度研修員受入実績、日本語研修についての説明の後、最後に以下につき、リーダーに協力を強く依頼し報告を終えた。

協力依頼事項：

- (1) カウンターパートの位置づけ、研修目的及び研修希望計画についての情報を「研修員要望調査表」を通じ、事前に流して欲しい。
- (2) カウンターパートに対する技術移転は第一義的には、プロジェクトサイドにて行なわれるものであり、日本での研修はあくまでプロジェクトに於る技術指導を側面的に補完するものである。
- (3) カウンターパートを集団コースへ参加させたいとして要請する場合は、集団コースにも定員等を定めているところ、要請前に原課に連絡し、受入可能性を確認されたい。
もし集団コースに参加出来ない場合、集団コース参加希望の旨記載された要請書を以って他の受入機関を探す事は非常に困難である。
- (4) 来日前に語学力、健康状態、食事等の問題のチェックが特に必要である。来日後、ノイローゼ、ホームシックになったり、万引、ひったくり等により警察ざたになるケースもある。また妊娠中の来日も最近目立っている。
- (5) カウンターパートの研修終了後、帰国後、日本で勉強した成果について等のコメントをプロジェクトサイドからもらえると有難い。
- (6) 高級研修員、準高級研修員等の判断と格付は、JICAの内部規定、在外公館、JICA事務所、各事業部からのコメントやインフォメーションによって慎重に行なうので、プロジェクトサイドでは本人に期待を持たせるようなコメントは差控えて欲しい。

<第2日目>

会議2日目は、議題「プロジェクトの現状と問題点」について域内プロジェクトの各リーダーから持ち時間15分で、それぞれの報告が行われた。

その後、農林三部業務改善案について松本農開課長の司会により討議がなされ、次のような問題点の指摘がなされた。

- 調査団がよく重なって来ており対応に苦慮する。
- 調査団長の中には報告書を未読のまま来訪する者がいる。
- 団長は土地感のある人が望ましく、現地事情をよく知っている人であって欲しい。
- 年度末に調査団が集中する。
- 調査日程が短い。
- 巡回指導チームのメンバー選抜に際しプロジェクトサイドの声も入れてほしい。
- 国内支援委員会で議論されたことを現場にも流して欲しい。 等

<第3日目>

第3日目は、土屋農計画部長の議事進行により「特別議題」について討議され、午前は、「特別議題(1)プロジェクト技術協力と他事業との連携」、午後に「特別議題(2)技術移転・成果普及の阻害要因とその対策」について話し合われた。

特に研修事業関連については「(2)技術移転・成果普及の阻害要因とその対策」の討議の際カウンターパートの問題について、各リーダーから次のような指摘があった。

プロジェクトにおけるカウンターパートの資質と定着性について（事務局のアンケート）

	良	まずまず	ある
資 質	6	10	1
定着性	5	6	6

さらに具体的な問題点として次の点が指摘された。

- ① カウンターパートは、他の民間企業に比べて報酬が少なく、定着率の悪い一因になっている。
- ② 日本人流の義理人情だけでは、もはや、定着を保つことは困難である。物理的環境を良くする他、方法は無いのではないか。
- ③ 自助努力が必要であることを相手国側が強く感じているかどうか疑問である。

これらの問題に対し、プロジェクトの各リーダーは改善策を模索中であったが、定着率を高める具体的な対策として、R/D の内容の見直し、検討の必要性があげられた。

つまり、研修員として日本で研修を受け帰国した後には、少なくとも何年間かは、期間を定め、当該プロジェクトの中心指導者としての任務を遂行すべく、R/D の段階からそのような取決めを条項にもり込むというものである。

しかしながら、本件については内政干渉ととらえる向きもあり、さらなる検討を要するが、東京サイドとしてもローカルコスト問題を含め関係者間で対応策を検討することを伝達し終了

した。

<第4日目>

4日目は総括質疑があり、その中で中南米のあるリーダーから準高級レベルの研修員の婦人同伴について要望があった。準高級レベル以上の研修員の訪日研修について、本人に希望があれば婦人同伴を認めるべきである旨の要望があったが、特殊事情として認められるかどうかを含め今後ともひき続き検討課題とすることで聞きおくこととした。終わりに、カウンターパートの定着については、今後とも改善策を検討していくことが確認され各省挨拶、西野パラグアイ事務所長、土屋農計部長がそれぞれ挨拶を述べ、閉会した。

Panaderos: Sostienen que pierden

En sus notas al MIC, tratan de justificar los niveles de precios

El gremio de los industriales panaderos presentó ayer un estudio sobre su costo de producción al Ministerio de Industria y Comercio en el que trata de justificar el aumento en los precios de los panificados y fideos. Sostiene, además, que tiene un déficit promedio del 14,6% en su venta por kilo de los productos. No propuso el monto del incremento. Por otra parte, un dirigente de los obreros panaderos dijo que la suba no debe ser superior al 10%.

El gremio de los panaderos trató de justificar ante el Ministerio de Industria y Comercio su pedido de aumento en el precio de los panificados. Presentó un estudio al subsecretario de Comercio de dicha cartera de Estado, doctor Luis Ramón Ortiz Rami-

tez, con los distintos componentes del costo. Según el mismo, en tres de sus productos: pan francés, galleta seca y galleta con grasa estarían experimentando una pérdida promedio del orden de 14,6%.

Dicho estudio fue dado a

conocer ayer por el gremio en una reunión de prensa en la que indicaron también que la difícil situación, es decir la postergación en la fijación de precios, podía llevar a los panaderos "a lo que nosotros no podemos controlar", a recurrir a "subterfugios".

Las posturas irregulares que podrían asumir los panaderos, explicó el doctor José Pappalardo que actuó como vocero del gremio, son problemas con el impuesto a la renta y que no se respeten los kilajes.

Indicó además que se induce a los industriales "por una parte a no cumplir con los precios, y por otra a no pagar los salarios, porque por el más débil es el negocio".

SE SUMAN OTROS FACTORES DE INCREMENTO

Se explicó, por otra parte,

que se están analizando con el Ministerio citado otros componentes del costo que anteriormente no estaban considerados para la fijación de precios, y por lo tanto estaban siendo absorbidos por los industriales. Entre estos factores se encontraría fundamentalmente el de la distribución o reparto. Se encuentran también los uniformes de uso obligatorio, o el polvoreo de masa, entre otros.

PRECIOS DE VENTA

Se informó igualmente que el Ministerio de Industria y

Comercio está estudiando rubro por rubro dichos componentes y que probablemente los panificados tengan un precio de venta en la planta industrial, otro en los almacenes y supermercados y otro para su venta al detalle. "Es el estudio, hay otros puntos que negociar, pero estamos negociando".

70% PANADERIAS CLANDESTINAS

Por otra parte, el gremio sostuvo que existe un elevado nivel de competencia de la

en el sector, ya que de las 2.000 panaderías existentes, aproximadamente entre el 60 y 70% serían clandestinas mientras el porcentaje restante está trabajando en forma regular "o casi regular".

Explicaron por otra parte, que la industria panadera no tiene ninguna relación con la industria yerbatera, ya que tienen distintos componentes de costos y determinación de niveles de los mismos, aludiendo a una información que indicaba que mientras la yerba bajaría sus precios, otros sectores propugnanah nuevos aumentos.



Aspecto de la reunión de prensa convocada por el Centro de Panaderos y Fideeros.

"Aumento no debe pasar 10%"

"La fijación de precios de los panificados debería ser más específica y respetada, ya que no podemos continuar engañándonos con los precios, porque se establecen unos y se cobran otros. Tampoco por esta razón nunca se efectuó un control de precios", dijo ayer Antonio Rodríguez, titular del Centro de Obreros Panaderos.

Rodríguez indicó que "en

esta cuestión de precios, es todo un caos, porque nadie respeta a nadie: se deberían adoptar actitudes más responsables y son las autoridades las que deben tomar ciertas medidas de solución", dijo.

Aclaró que "en cuanto a un pedido de aumento de precios para los panificados, en ningún caso deberá sobrepasar el 10 por ciento. Los patronos o productores de panificados sostienen que este rubro alimenticio —actualmente— ya no es rentable: No sé cómo pueden afirmar eso si cada día vemos nuevos establecimientos panaderos. El producto siempre es rentable, ya que no se tienen en cuenta los precios establecidos por el Gobierno. Esos ítems no son válidos porque no son específicos. La realidad es otra, porque los panaderos venden el producto más caro de lo que realmente



Antonio Rodríguez

corresponde". Aclaró que "siempre se pide que el trabajador sea el que se sacrifique, siempre es el que lleva sobre sus hombros todas estas situaciones irregulares, se pide estoicismo desde los ministerios para el pueblo trabajador, pero no para los patronos", finalizó el gremialista.

Expertos internacionales del JICA se reúnen aquí

Vinieron enviados de Medio Oriente y Africa

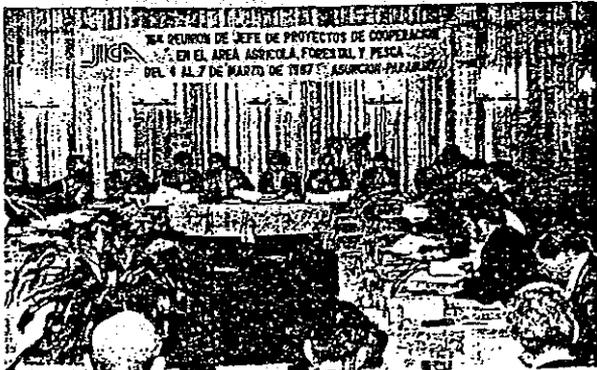
Expertos japoneses que prestan servicios técnicos en Medio Oriente, Africa y Latinoamérica se reúnen desde ayer en nuestra capital para definir proyectos a ser encarados en el presente año por la Agencia de Cooperación Internacional del Japón (JICA) en los respectivos países involucrados en el marco de la asistencia técnica.

El encuentro corresponde a la XVI reunión de jefes de proyectos de cooperación en las áreas agrícola, forestal y pesca. La apertura oficial tuvo lugar en la mañana de ayer en el Hotel Guarani en presencia del Embajador japonés en nuestro país, Jutaro Sakamoto, así como funcionarios del JICA.

JICA viene ejecutando proyectos de cooperación técnica para promover la producción agrícola, forestal y de piscicultura en numerosos países del mundo y para evaluar los trabajos desarrollados en el ejercicio anterior y establecer nuevas programaciones para el '87.

Con el fin de ejecutar eficientemente los proyectos de cooperación en el exterior, el Gobierno de Japón, por medio de JICA, organiza cada año una reunión con todos los líderes de diferentes proyectos. Este año se lleva a cabo en nuestro país, teniendo en cuenta los éxitos resultados que están demostrando los proyectos de cooperación técnica del sector agropecuario en el Paraguay.

Participan del encuentro en nuestra capital 20 directores que tienen a su cargo diversos proyectos: en países de Africa, Medio Oriente y Latinoamérica, a más de 10 enviados del Japón, entre funcionarios gubernamentales de diferentes ministerios y especialistas del área agropecuaria. Por Latinoamérica asisten directores de Argentina, Chile, Honduras, México, Perú, Uruguay y Paraguay. De Africa: Egipto, Marruecos, Kenia, Tanzania y Zambia. El encuentro incluirá, por otro lado, discusiones sobre el desarrollo agrícola, promoción de piscicultura, desarrollo ganadero, forestal, entre otros.



En la tarde de ayer comenzaron las deliberaciones entre los técnicos del JICA en nuestra capital para definir los proyectos a ser realizados este año en diversos países (foto). El encuentro internacional se inauguró a la mañana.

CRONICAS DE MI CIUDAD

Asunción colonial (I)

Avancemos un poco más en el tiempo, ya adentrándonos en el siglo XVII. De acuerdo a las crónicas, las mejores lunecenas se debían entonces a una mayor densidad poblacional y a las condiciones económicas más favorables merced a la producción continua del sector agrícola, y algún emprendimiento industrial como la explotación de la caña de azúcar.

Sin embargo, no se producía en su florecimiento el menor atisbo de transformación urbana. Segura conservando su perfil de pueblo pequeño, con casas bajas y arcaicas maderas en torno a la iglesia. Sus altas barrancas ribereñas seguían quietas frente al río, exhibiendo el profundo rojo de sus laderas. El inmenso verde se enseñoreaba en una verdadera selva del interior, y sólo el camino azul del río, le ponía el tono distinto a este paisaje bucólico del final del siglo.

Las calles estaban apenas delineadas por entre matorrales, y recorrían caprichosamente el sendero que marcaba el continuo caminar. En los días de lluvia el torrente se adelantaba por los surcos y dejaba huellas imborrables que se convertían en senderos

tortuosos, que inevitablemente desembocaban en el río.

Como era costumbre, las construcciones más altas y mejor ubicadas eran de propiedad de las órdenes religiosas. Así, en preferenciales colinas reposaban los conventos de la Merced, de San Francisco, de Santo Domingo y de la parroquia de la Encarnación.

También, como suele darse en estas sociedades, dentro del área geográfica de influencia de estas construcciones, tenían asiento las viviendas de los hombres más acaudalados y de las familias de más rancia prosapia. Hacendados y representantes de las milicias compartían el círculo casi exclusivo de las casas del lugar.

Metros más abajo, siempre a merced de los dardos del río, o de las tormentosas precipitaciones, estaban las casas más humildes, donde el pueblo celosamente elevaba sus huertas o instalaba sus gallineros. El silencio era el gran protagonista de esta etapa asuncense. Al caer la tarde, todo quedaba en paz "como una estremecida carpa de misterio" al decir de un poco feliz historiador.

FINANCIERA ASUNCION S.A.
 LA FINANCIERA DE NUESTRA CIUDAD.
 (Incorporada Nacional 846 - 211. 210 - Telex: 22 837 - 22 206 - 27 007)

訳

JICAの国際専門家ここに集う ＜中東・アフリカからも来パ＞

日本の援助として現在、各国において実施されているプロジェクトの打ち合せのために中東、アフリカ、中南米で技術を提供している日本人専門家が、昨日よりアスンシオン市に集まった。

この会議は、今年で第16回を数え、農林水産分野のプロジェクトリーダーが集まったものだ、JICA職員にまじえて在パラグアイ日本国大使、坂本重太郎氏も出席し、ホテルグァラニーで昨日より始まったものである。

JICAは世界中の多数の国々で農林水産振興のためのプロジェクトを実施しており、昨年度の開発事業評価及び87年度の新しいプログラム策定のために実施に至った。

JICAを通じ、海外での技術協力プロジェクトを効果的に実施するために、日本国政府は毎年、各国のプロジェクトリーダーを集めている。本年は、農牧業分野での技術協力プロジェクトが大いに効果をあげた我国で本会議が実施された。

アフリカ、中近東、中南米の国々の各プロジェクトから20人ものリーダーが集合し、日本からも各省代表及び農業専門家が10人以上来パした。南米からは、アルゼンティン、チリ、ホンデュラス、メキシコ、ペルー、ウルグアイ、パラグアイの各国、アフリカからは、エジプト、モロッコ、ケニア、タンザニア、ザンビアの各国でのプロジェクトリーダーの出席があった。

本会議では農業開発、養殖振興、森林牧畜開発についての論議も他にまじえてなされるであろう。

VI パラグアイ国帰国研修員同窓会役員との打ち合せ

1. 同窓会概要

同窓会名	ASSOCIACION DE EX-BECARIOS PARAGUAYOS EN EL JAPON
結成年月	1975年10月
同窓会長	Mr. Jalei, Garcia Rodriguez
職 業	ANTELCO 交通管理センター所長
研修科目	国際電信電話業務 1975年来日

2. 同窓会の主な活動

1975年に帰国研修員と日本人との精神的絆、友情を維持し、日パ間の文化的技術的活動を促進することを目的として設立された。会員数は500 余名。

同同窓会では、会報の発行や毎年日本芸術祭を催すなど文化交流を図り、積極的な活動を実施している。

また同窓会事務局を1988年8月完成予定の人造りセンター施設の中に移す予定となっている。

3. 打ち合せ概要

打ち合せ場所	スポーツクラブ「サホーニャ」
出席者	パラグアイ国帰国研修員同窓会 会長 Mr. Garcia 他 役員12名 JICAパラグアイ事務所 西野 世界所長他

冒頭 Mr. Garcia 会長より調査団歓迎の挨拶があり、ひき続き飯島調査団長から昨年10月、JICA 東京国際研修センター(TIC)で開催した帰国研修員同窓会代表者セミナーに出席した同会長に謝意を述べた。

また同窓会が帰国研修員とJICAをつなぐパイプ役として、ますます大きな役割が期待されている今日、パラグアイ国同窓会より積極的に今後の活動についてアイデア・情報・提案等をJICAに対し提供してもらおうべく、協力を依頼した。

またパラグアイ国同窓会よりは、来日前の研修員に対するパラグアイ側でのオリエンテーションを3月下旬より同窓会が主体となり開催する旨のプログラム紹介があった。同オリエンテーションは、日本の気候、風土、生活習慣、帰国研修員経験談、訪日準備アドバイス及びJICA業務紹介等をもり込んだものであり、同窓会が主体となって行なうものとし

ては前例をみない画期的なものと思料される。(プログラムは、別添のとおり)
併せて来年度同窓会活動経費の増額要望があった。



Asociación de Ex-Becarios Paraguayos en el Japón

Asunción - Paraguay



ASOCIACION DE EX-BECARIOS PARAGUAYOS EN EL JAPON

JORNADA DE INFORMACION Y ORIENTACION PARA FUTUROS BECARIOS SOBRE
CURSOS DE CAPACITACION EN JAPON

PARTICIPANTES: FUTUROS BECARIOS AL JAPON

LOCAL: CENTRO DE ENTRENAMIENTO VOCACIONAL "PDTE. CARLOS A. LOPEZ"

FECHA: Marzo de 1987

HORARIO: 19:00 a 21:00 horas

RESPONSABLE: ASOCIACION DE EX-BECARIOS PARAGUAYOS EN EL JAPON

OBJETIVOS:

1. Proporcionar informaciones al futuro becario sobre diversos aspectos que hacen relación a su estadía en el Japón.
2. Intercambiar experiencias con los Ex-Becarios con miras a vivenciar situaciones.

<u>CONTENIDO:</u>	<u>RESPONSABLE</u>	<u>TIEMPO</u>
1. Palabras de Apertura	Presidente de la Asociación de Ex-Becarios Paraguayos en el Japón	5'
2. Breve información sobre el Japón	Miembro de la Asociación de Ex-Becarios	10'
3. Que es JICA	Representante de JICA en el PARAGUAY	20' a 25'
a. Objetivo que persigue		
b. Descripción General-Organigrama		
c. Actividades		



Asociación de Ex-Becarios Paraguayos en el Japón

Asunción - Paraguay



<u>CONTENIDO</u>	<u>RESPONSABLE</u>	<u>TIEMPO</u>
3. (QUE ES EL JICA) Cont. Qué es el Programa de Capacitación de JICA. - Descripción general - Sistema de aceptación de participantes - Obligaciones de los participantes.		
4.- Preparación para el viaje al Japón. Llegada al Japón.	Sr. KATO (Agencia de viajes AGYR)	10'
5.- Centro Internacional de TOKYO - Organización - Resumen del programa de entrenamiento - Disposición del edificio.	Lic. STELA GONZALEZ DE TORALES	
6.- Información sobre comida Japonesa	Dra. ELENA KASAMATSU DE BALBONTIN	5'
7.- Relatos de experiencias de los Ex-Becarios a. b. c. d.	Profesionales EX-BECARIOS DEL JAPON	5' c/u

RECURSOS HUMANOS

- Miembros del JICA
- Miembros de la Asociación de Ex-Becarios.



Asociación de Ex-Becarios Paraguayos en el Japón

Asunción - Paraguay



./.

- 3 -

MATERIALES:

- Tizas
- Acetatos
- Pinceles
- Papel sulfito
- Películas

EQUIPOS

- Porta carteles
- Retroproyector
- Pizarrón
- ,Proyector de película.

訪日予定研修員のための
オリエンテーションプログラム
「バ」国婦国研修員同窓会
(日本語訳)

対象：訪日予定研修員

場所：

月日： 1987年 3月

時間： 19:00 ~21:00

実施責任者：「バ」国婦国研修員同窓会

目的

1. 訪日予定研修員に対し、日本での研修科目に関連したさまざまな点について情報を提供する。
2. 婦国研修員による経験談を聞くことにより、訪日の際の参考とする。

内容。

1. はじめに
2. 日本についての概説
3. JICAとは何か
 - a 目的
 - b 機構の概説
 - c その活動内容
JICAでの研修プログラムは、いかなるものか
- a 一般的概説
- b 研修員受入事業システム
- c 研修員の義務
4. 日本への訪日準備及び日本に着いてから
5. 東京国際研修センター
 - a 機構
 - b 研修プログラム概説
 - c TIC の施設
6. 日本食について
7. 婦国研修員体験談 (数名)

Ⅷ アスンシオン市中央食品卸売市場改善プロジェクト視察

本視察は、当初、調査日程には予定していなかったが、昭和62年度に評価ミッション派遣が予定されており、研修員受入も昭和62年度をもって終了し、研修第一課が担当である等の理由から、リーダーの特別の取りはかりにより同プロジェクトの視察が実現された。

1. プロジェクト概要

- (1) R/D 等署名日：昭和56年12月7日
- (2) 協力期間：(R/D) 昭和56年12月7日～昭和62年12月6日
- (3) 所在地：アスンシオン市
- (4) 先方関係機関：アスンシオン市市場管理局
- (5) 我方協力機関：農水省、(社)食品需給研究センター
- (6) 要請背景：既存公設小売市場と卸売業者店舗の濫立による交通麻痺・不衛生状態を改善し、正常な卸・小売市場の整備発展を期するため、卸売市場の新設計画（世銀借款により1981年9月竣工）があり、これの一環である。
- (7) 目的・内容：新設卸売市場に対し卸売市場として運営・管理機能の充実を図ることを目的とし、
 - 運営管理
 - 標準建値算出
 - 卸売市場と小売市場間の情報システム整備
 - 品質管理
 - 生産流通に関する物流調査
 - 消費者動向調査等の技術指導を行なう

2. 視察概要

(1) 主要面会者

清野 正善 プロジェクトリーダー

米沢耕三郎 プロジェクトコーディネーター

Mr. Jorge Ishibashi

Mr. Gustavo Dias Quiñones

(2) 視察内容

当プロジェクトは開始以来、当初協力予定の4年を経過した時点で、より一層の協力効果を上げる為、2年間の延長を行なった。現在4名の専門家を派遣中であり、市場の運営管理、市場規則の整備、品質規格基準の設定、標準建値算出、統計処理について協力、JICAが機材供与した冷蔵庫、選果機等の利用技術についても指導中である。

カウンターパートの研修では、すでに14名の研修員を受入れたが、当プロジェクトにおいてもカウンターパートの定着率の不振が問題になっている。

VIII アルゼンティン国帰国研修員同窓会との打合せ

1. 同窓会概要

同窓会名	ASSOCIACION DE BECARIOS DE LA ARGENTINA AL JAPON (ABEJA)
結成年月	1968年6月
同窓会長	Mr. Eduardo M. Gelati
職業	水力発電公社 基礎研究部長
研修科目	電力コース (1963来日) 電気事業経営 (1973来日)

2. 同窓会の主な活動

アルゼンティンと日本の協力は、これまで30年近くに及びなされており、JICA帰国研修員は、約600人に達している。毎週一回、定期役員会議を開いている他、2月に一回の会報を発行、専門家の講演会、日本の写真展等、精力的に活動を展開してきている。

3. 打合せ概要

打合せ場所	JICAアルゼンティン事務所
出席者	アルゼンティン国帰国研修員 同窓会会長 Mr. Gelati 他 役員13名 JICAアルゼンティン事務所 石塚 誠 業務第二課長他2名 在アルゼンティン国日本大使館 三輪 能弘 書記官

まずMr. Gelati会長より調査団歓迎の挨拶に続き、役員の紹介及び同窓会活動状況等について報告があり、次に飯島団長からアルゼンティン国訪問の目的及びJICA同窓会事業の今後の方向づけ等の説明を行なった。

その後、同窓会側より以下につきJICA側に対し要請があった。

- ① 莫大な資料等を1つにまとめるため同窓会の事務所を設置して欲しい。
- ② 研修員リスト作成及び帰国研修員を登録するためのパーソナル・コンピューターをJICA事務所に導入し、同窓会事務局にも使用させて欲しい。
- ③ JICA本部から派遣される調査団・専門家のために同窓会として側面的な支援を行ないたい。
- ④ 専門家がアルゼンティンに派遣された際、公開セミナーのようなものを同窓会が主体なっ

て開催したい。

- ⑤ 研修員は帰国後も新目の情報は深く、日本について文化的な側面からも学び続けてゆきたい。については日本文化紹介の雑誌のたぐいを送付して欲しい。

- ⑥ 同窓会としての図書館を設立したい。

同窓会事務所の設置及びそれに伴う視聴覚機器、事務機器の供与は、昨年10月開催された帰国研修員代表者セミナーにおいても同窓会代表者側からの提言(recommendation)として各国より要請があったものである。JICA側としても、早期実現を期して財政当局に予算要求を試みたが、残念ながら認められなかった。同窓会が、さらに活発に活動を実施するには事務所設置が大きなステップにもなることから、JICAとしても、引続き前向きにこの問題にとり組みたい。

また調査団・専門家のアテンド、側面的支援を同窓会が主体となって行なうことについては、当該国についての情報を同窓会から提供してもらうことは、大変、有益である。また日本でのオリエンテーションだけでは当該国に生活するのは難しいことも事実である。業務量の増大にもかかわらず事務所スタッフの増員が予算上、困難なことから、将来的には、是非、同窓会に協力を依頼する方向で考えたい。しかしながら研修事業部以外の事業部との関連もあり、調整が必要である。

雑誌・パンフレットの送付については、現在「Kenshu-in」「Look Japan」「Farming Japan」を送付しているが、さらに適当なものがあるか、予算との調整を図りながら検討する。

OA機器については、特に予算の関点から事務所設置後、順番に拡充してゆくべきであると思料される。

以上、同窓会側からの要請に対し、飯島局長が上記のようにコメントした。

役員との打合わせの後、アルゼンティン事務所・調査団共催によるレセプションを開催しブエノス・アイレス市近郊在住帰国研修員を中心70名余の出席があった。

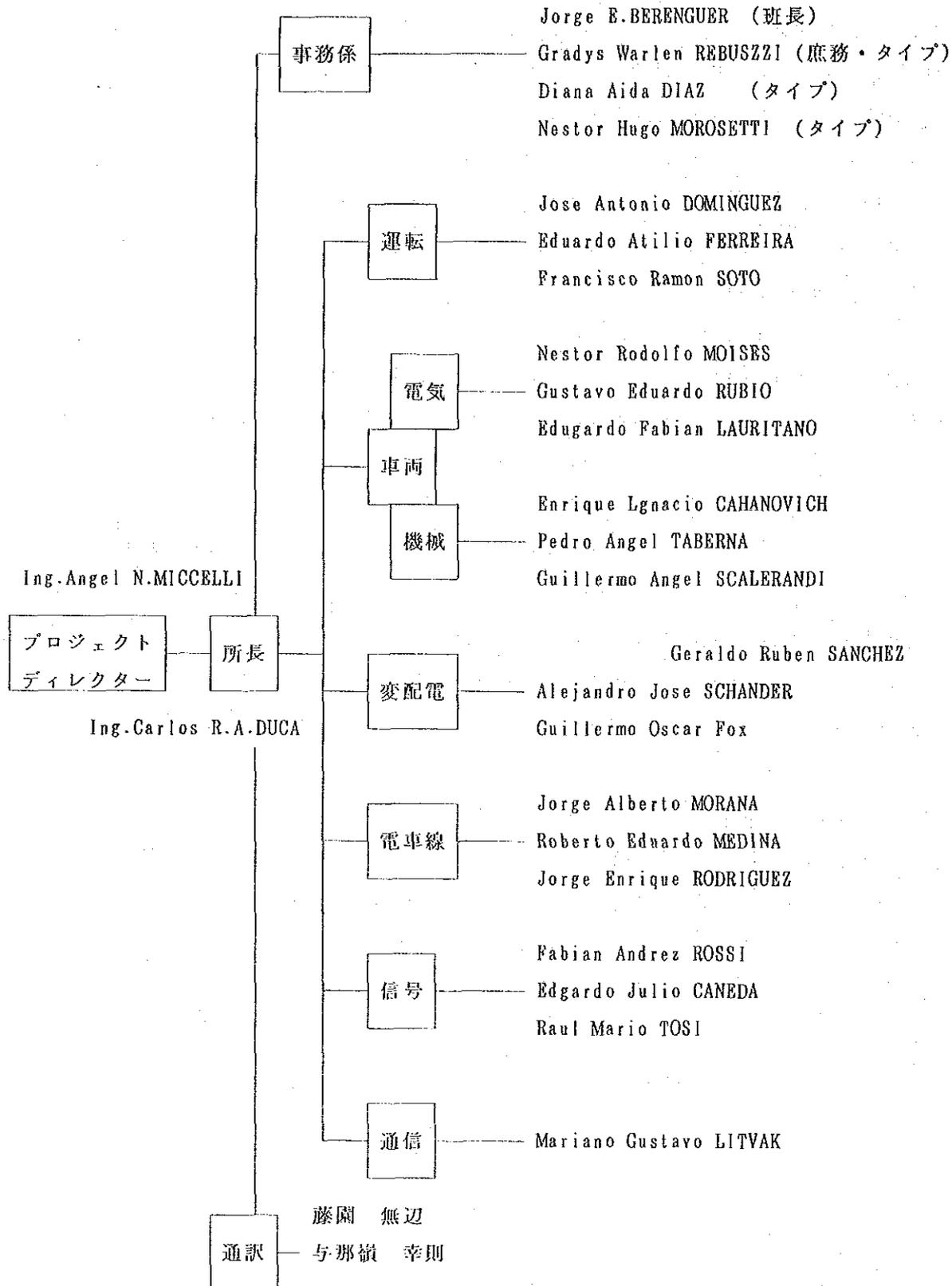
中には旧海外技術協力事業団(OTCA)時代の研修員バッジを胸につけてくる者も居り、10数年たった今もなお、日本に対して愛着をもち続け、彼らが日本との友好親善に大きな役割をはたしていることを痛感させられた。

IX アルゼンティン国鉄中央研修センター帰国研修員との打合わせ

1. プロジェクト概要

- (1) R/D 等署名日： 昭和60年11月28日
- (2) 協力機関：(R/D) 昭和60年11月28日
～昭和65年11月27日
- (3) 所在地：ブエノス・アイレス近郊 (Temperley 及び Uevallol)
- (4) 先方関係機関：アルゼンティン国鉄 (FA)
- (5) 我方協力機関：運輸省
日本鉄道株式会社 (JR) (旧 日本国有鉄道)
- (6) 要請背景：アルゼンティン国鉄は、輸送力の近代化を図るため、ブエノス・アイレスから延びる幹線を交流電化計画に基づき近代化に伴う車輛、信号・通信設備の運転保守管理要員を大量に養成するため、中央研修センターを設立することとし、近代的な交流電化システムの保守運営に高い技術と経験を有する我国に対し、58年11月技術協力を要請してきた。
- (7) 目的・内容：アルゼンティン国鉄ロカ線の交流電化に伴い必要とされる運転保守管理要員合計640名を、下記の7コースを年間1～4回開設することにより養成する。
 - ① 運転コース (2ヶ月間、20名)
 - ② 車輛(電気)コース (2ヶ月間、20名)
 - ③ 車輛(機械)コース (2ヶ月間、20名)
 - ④ 変配電コース (2ヶ月間、10名)
 - ⑤ 電車線路コース (2ヶ月間、15名)
 - ⑥ 信号コース (2ヶ月間、15名)
 - ⑦ 通信コース (2ヶ月間、15名)

国鉄中央研修センター組織図



2. 打合せ概要

(1) 主要面会者

Mr. Angel N. Miccelli アルゼンティン国鉄人材開発調整局長

Mr. Gralos R. A. Duca アルゼンティン国鉄中央研修センター所長

Mr. Jose Antonio Dominiaquez 国鉄教官

Mr. Guillermo Oscar Fox ”

Mr. Fabian Andres Rossi ”

以上、帰国研修員（1名欠席）

上野 勝緒 プロジェクトリーダー

松本 征吾 プロジェクト調整員

アルゼンティン国鉄研修センターパート研修員

分野	専門家名	カウンターパート名	生年月日	年齢	学歴	入社年月日	研修科目	研修期間
団長 業務 調整	上野 勝禮	Angel Nestor MICCELLI	1931. 2. 26	55	大学卒	1959	鉄道一般	61. 2. 26— 3. 18
	松本 征吾	Carlos Remo Alfonso DUCA	1954. 10. 26	31	大学卒	1982. 8. 2	"	" "
運転	町田 臣	Jose Antonio DOMINGUEZ	1953. 6. 25	33	小学校卒	1979. 5. 4	鉄道一般	61. 10. 23—11. 27
車両 電気	斎藤 昭造							
車両 機械	日高 冬比古	Enrique Ignacio CAHANOVICH	1944. 10. 14	41	小学校卒	1960. 11. 24	鉄道一般	61. 10. 23—11. 27
変配 電		Guillermo Oscar FOX	1963. 6. 28	23	大学在5年	1982. 9. 16	鉄道一般	61. 10. 23—11. 27
信号	木吉 邦雄	Fabian Andres ROSSI	1964. 4. 29	22	大学在3年	1982. 12. 27	鉄道一般	61. 10. 23—11. 27

(2) 打合せ内容

当プロジェクトからは、今まで別表のとおり60年度に2名、61年度に4名のカウンターパートが来日して研修を実施しており、次のような感想が述べられた。

- 日本人専門家と仕事をする上で、日本の技術を実際に見ることができたのは有益
- シミュレーション装置等、機械設備が素晴らしい。
- 内容、質ともに良く深い理解が得られた。
- 研修期間が短かった。(2ヶ月位の研修を望む。)

おおむね、日本での研修内容は好評であり、JICA側からは、当中央センターの今後の発展のため、人材育成の観点からカウンターパートとしてできるだけ長くセンターに居とどまるよう協力依頼した。

アルゼンティン国鉄中央研修センターは、日本政府の技術協力によりラテン・アメリカにおいても他国に誘われる程、充実した設備をもつ研修センターになりつつあるため、第三国研修の実施を先方に提案した。また昨年より個別の第三国研修も実施されており、アルゼンティン側も、是非協力したい旨のコメントを得たので、今後の「つめ」いかんによっては、当センターにおいて第三国研修が実現することも夢ではないと思われる。

最後に、アルゼンティン側からなるべく同じ日本人専門家が長い期間、アルゼンティンに居るよう日本側に協力依頼があった。

X. ブラジル (リオ・デ・ジャネイロ)

帰国研修員同窓会との打合せ

1. 同窓会概要

同窓会名	ASSOCIAÇÃO DE COOPEPACAO TECNICA. BRASIL- JAPAO
結成年月	1980年4月
同窓会長	Mr. Alberto Homs i
職業	ブラジル港湾公社技師
研修科目	港湾セミナー (1965年来日)

2. 同窓会の主な活動

ブラジル国での同窓会の歴史は比較的新しく、しかも、国土が広範囲に及ぶためリオの他、ポルト・アレグレ、クリチーバ、サン・パウロと4つの都市に設置されている。リオ同窓会においては、リオ・デ・ジャネイロ州、ミナス・ジェライス州、エスピリット・サント州の3州を管轄下においている。

リオ地区同窓会の特徴の1つとしては、同窓会員が必ずしもJICAの帰国研修員ではなく、海外技術者研修協会(AOTS)、文部省留学生、県費留学生等、なんらかの理由により日本で学んだ者も入会できるシステムになっている。

同窓会役員は11名より構成され、毎週1回定期役員会を催している。

3. 打合せ概要

打合せ場所	日本料理店「赤坂」
出席者	リオ地区同窓会会長 Mr. Alberto Homs i 同 役員(財政担当) Mr. Namio Miyakoshi 加茂 富士郎 JICA リオ事務所長

リオ地区同窓会は、歴史も新しく、現在、発展途上の段階にあり組織づくりに努めている。役員会では、目下、同窓会会報の発行と会員リストの作成を計画中であり、会則もつくりたいとしてJICA側に協力を求めた。

調査団からは、昨年10月同窓会代表者セミナーを実施するに至った経緯や今後の同窓会活動の方向づけについて説明した。

ブラジル JICA 研修員の数が多いことから今後が期待されるが、国内各地区により活動が独立されて行なわれているため、それぞれ活動のトーンが異なり、ブラジル国同窓会として機構、活動等を各地区調整する必要があると思われる。今後、近い将来、中南米ブロックにおける同窓会代表者セミナーを開催し、地域内相互間の親睦をはかり、各国同窓会同士で刺激し合う場をつくるといったことも検討されてよいのではないか。

しかしながら、ブラジル国帰国研修員同窓会活動の不振の一因としてブラジル国での JICA のステータスの問題もある。つまり、研修受入事業は大使館・総領事館の業務となっており、JICA 事務所としては、公式に人数、分野、本人の連絡先等を掌握できない状況にあるため同窓会オルグに手間どることが多い。

別添：持ち帰り資料

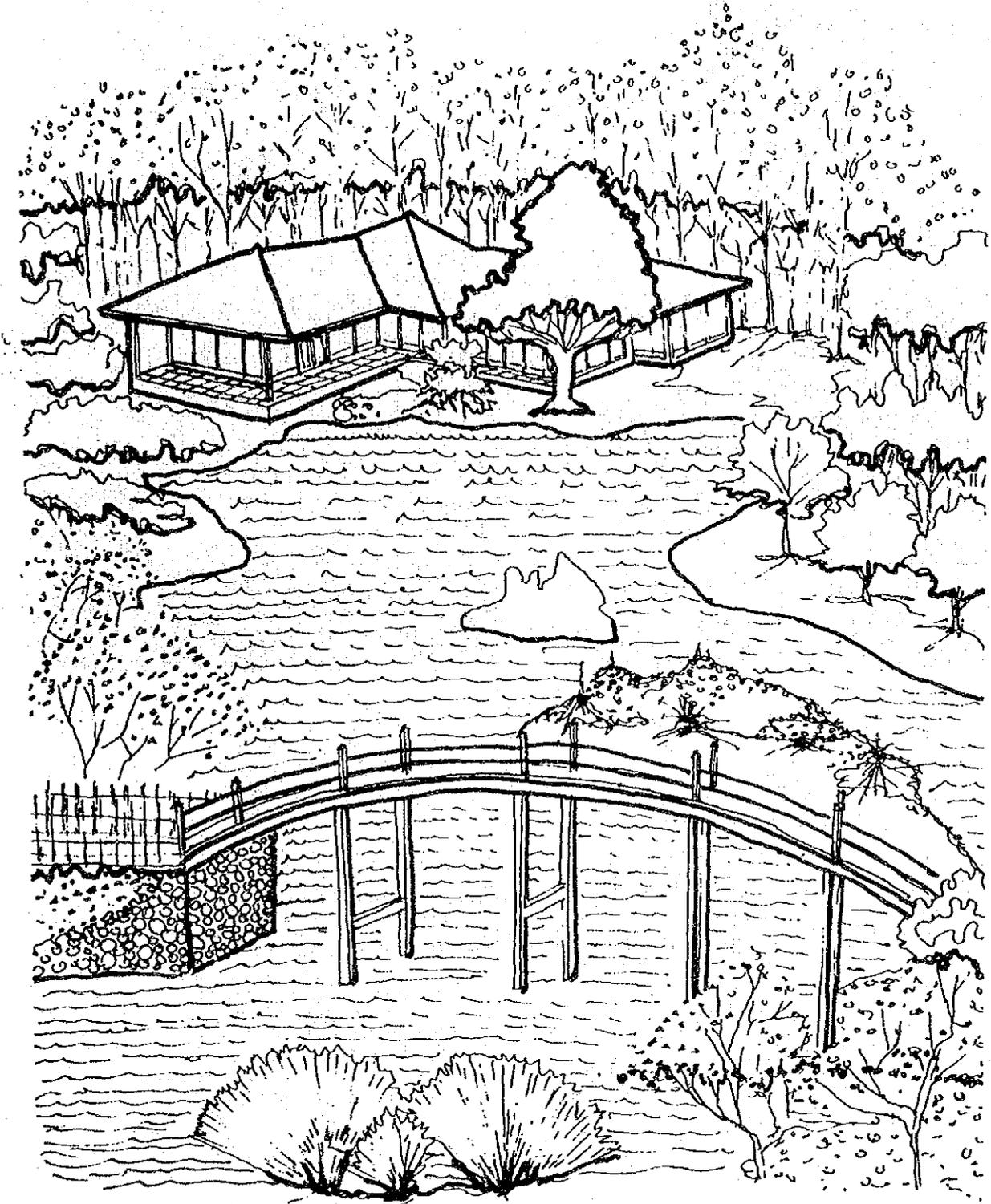
パラグエイ国帰国研修員同窓会機関誌

「DOMO ARIGATO」

● 原版

● 日本語（訳）…現地で訳されたもの。

DOMO ARIGATO



RITSURIN PARK, DE LA CIUDAD DE TAKAMATSU
(ISLA DE SHIKOKU)



DOMO ARIGATO

Número dedicado a la visita de sus Altezas Imperiales los Príncipes Hitachi y Hanako del Japón y a los festejos del Cincuentenario de la Inmigración Japonesa en el Paraguay.

1986

DOMO ARIGATO

Diciembre/86

SUMARIO

Boletín de la Asociación de
Ex-Becarios Paraguayos en el
Japón.

1. Editorial
2. Comisión Directiva
3. Excursión a las Colonias Japonesas
4. Entrevista de los Príncipes con la
Comisión Directiva de la Asociación
5. Presencia de los Príncipes Imperiales
del Japón Hitachi y Hanako en acto de
colocación de la Piedra Fundamental
para el futuro Centro.
6. Programa de festejos del Cincuenta-
nario de la Inmigración Japonesa al
Paraguay.
7. Mejor egresada de la Universidad
Nacional de Asunción.
8. Actividades realizadas
9. Balance y Cuadro de Honor de Socios
al día
10. Al undécimo año de vida
11. Seminario de Presidentes de Aso-
ciaciones de Ex-Becarios

Responsables de esta edición:

Prof. Dra. María Teresa R. de
Valiente y Prof. Daisy López
de Valinotti.

=====

1. EDITORIAL

El año 1986 fue pleno de realizaciones para la Asociación de Ex-Becarios Paraguayos en el Japón. Acabamos de cumplir once años de existencia fructífera, de modo que este año nos abocamos a la obtención de nuestra Personería Jurídica que se oficializó con la promulgación del Decreto Nº 18.464 del 17 de noviembre del corriente año.

Numerosos acontecimientos felices marcaron nuestra actividad, como las reuniones previas y la colocación de la piedra fundamental del Edificio de Recursos Humanos, donde tendremos un local para la atención de nuestros socios, acontecimiento que fue prestigiado por la visita de los Príncipes Hitachi y Hanako del Japón. Así como los festejos del Cincuentenario de la Inmigración Japonesa en el Paraguay, en cuya Comisión de Festejos se incluyó a nuestra Asociación en la persona de su Presidente Sr. Jalei García. Lo mismo que el viaje de éste al Japón para una reunión de Presidentes de Asociaciones de Ex-Becarios de otros países, donde tuvo la oportunidad de presentar en nombre de nuestra Asociación, un video con un resumen de nuestras actividades.

En fin, una serie de acontecimientos que demuestran que seguimos viviendo, y que hoy, más que nunca, necesitamos la ayuda de todos los Ex-Becarios sin distinción alguna para que sigamos adelante. ¡Siempre adelante!

Al terminar el año, deseamos a nuestros consocios una feliz Navidad y un próspero Año Nuevo 1987, que el Niño Dios colme de bendiciones vuestros hogares y el año que se inicia podamos todos juntos trabajar para que nuestra Asociación progrese cada día más.

Omedeto Gozaimasu!

2. COMISION DIRECTIVA

Presidentes Honorarios	:	Embajador del Japón en el Paraguay Dr. Jutaro Sakamoto. Embajador del Paraguay en el Japón Dr. Juan Carlos Hrase Von Barga
Presidente	:	Sr. Jalei García
Vice-Presidente	:	Prof.Dra. María Teresa Rivarola de Valiente
Secretaria de Actas	:	Prof. Daisy López de Valinotti
Secretaria de Relaciones	:	Dra. Ida Valinotti Fiore
Tesorero	:	Prof. César Velázquez
Pro-Tesorero	:	Lic. Amílcar B. Godoy
Vocales Titulares	:	Ing. Takao Moriya Dr. Angel María González Lic. Stella de Torales
Vocales	:	Dra. Elisa Antola Dra. Yolanda Richer Prof. Leandro Barrios
Sindico Titular	:	Arq. Alberto Diez Pérez
Sindico Suplente	:	Lic. Carlos Cibils C.
Consejeros	:	Prof. Braulio Santacruz Dr. Miguel A. Aguilar A. Cnel. D.S.M. (S.R.) Dr. Cristóbal Valiente A.

3. EXCURSION A LAS COLONIAS JAPONESAS Y AGRIEX

Como había planeado la Comisión Directiva de la Asociación, partimos a la medianoche del 15 de agosto de frente al Banco de Fomento, en un omnibus de "La Encarnacena". Llegamos a Puerto Pdte. Stroessner para el desayuno. El tiempo nos jugó una "pasada", de tal modo que se tuvo que alterar el programa y seguimos hacia Itaipú, donde visitamos la colosal represa, para luego estar a mediodía en la Colonia Yguazú, donde nos esperaba un gran recibimiento de parte de las Autoridades: el Sr. Administrador de la Colonia Yguazú, Sr. Makoto Saway; el Director de la Estación Experimental, Sr. Tsuyoshi Eida; a más del Intendente Municipal, el Director del Colegio, Ex-Becarios y Voluntarios de J.I.C.A.

Luego de una visita a los Laboratorios, nos sirvieron un sabroso asado de vaquillona Santa Gertrudis donada por el Director de J.I.C.A. a más de la exquisita comida japonesa preparada por la colectividad para agasajarnos.

Luego, a pesar de la intensa lluvia, se visitaron los cultivos y nuestros camarógrafos tomaron el material para el video, en preparación. La visita a AGRIEX quedó para otra ocasión, en vista de lo intransitable de la ruta, por lo que pasamos a Foz de Yguazú y con ello terminó la excursión que de todas maneras resultó un éxito.

4. ENTREVISTA DE LOS PRINCIPES CON LA COMISION DIRECTIVA DE LA ASOCIACION

Dentro del Programa Oficial de la Visita de los Príncipes Hitachi y Hanako del Japón, estaba marcada en la Agenda una entrevista. Esta se realizó el jueves 2 de octubre a las 17 horas en la Suite del Piso 12 del Hotel Excelsior. En la ocasión, en nombre de la Asociación se dirigió a los Príncipes Imperiales el Presidente Sr. Jalei García, quien resaltó nuestra satisfacción de ser recibidos por tan augustas majestades, y agradeció la oportunidad de habernos permitido realizar estudios de capacitación en la nación nipona. Al mismo tiempo, fueron entregados presentes recordatorios a los Príncipes por nuestras Secretarias: Licenciada Daisy de Valinotti y Dra. Ida Valinotti Fiore. Fuera de todo protocolo ambos Príncipes se interesaron por los estudios realizados por cada uno de los presentes y sus actividades actuales, terminando la entrevista con las explicaciones del Príncipe sobre sus trabajos científicos. Nos retiramos gratamente sorprendidos por la espontaneidad y cordialidad que adornan a nuestros ilustres visitantes.



5. PRESENCIA DE LOS PRINCIPES IMPERIALES DEL JAPON HITACHI Y HANAKO EN ACTO DE COLOCACION DE LA PIEDRA FUNDAMENTAL PARA EL FUTURO CENTRO

Arq. Alberto Díez Pérez.

Como parte del programa de conmemoración del 50 aniversario de la inmigración japonesa al Paraguay, el 2 de Octubre próximo pasado, en horas de la tarde, los Príncipes Imperiales del Japón Hitachi y Hanako, presidieron el acto de colocación de la piedra fundamental del futuro Centro Paraguayo-Japonés de Entrenamiento para Recursos Humanos, que será construido en un predio ubicado en las cercanías de la Plaza Luis Alberto del Paraná, de Villa Guaraní.

La ceremonia contó con la presencia del Intendente Municipal de la ciudad de Asunción, Gral Porfirio Pereira Ruiz Díaz, del Embajador del Japón en el Paraguay, Sr. Jutarō Sakamoto; del Presidente de la Asociación Paraguayo-Japonesa, el Gral. Marcial Samaniego, otras altas

autoridades nacionales y numeroso público. La Asociación de Ex-becarios paraguayos en el Japón estuvo representada en dicho acto por el Arq. Alberto Díez Pérez.

En la oportunidad, hicieron uso de la palabra el Intendente Municipal General Porfirio Pereira Ruiz Díaz y el Embajador del Japón Sr. Jutarō Sakamoto.

Posteriormente, se procedió a firmar el acta fundacional del Centro y a ubicar en la cápsula del tiempo los planos del edificio, así como monedas, fotografías y periódicos de la fecha que quedarán como testimonio de tan significativo acto.

La cápsula del tiempo fue depositada después en un patio especial por los Príncipes Imperiales y las autoridades presentes.

Cabe recordar en esta oportunidad, que la Asociación de Ex-becarios paraguayos en el Japón contará con su local propio en el futuro edificio a ser construido en Villa Guaraní como un aporte más del Gobierno del Japón hacia nuestro país.

N. de la R.: El Gobierno del Japón donará a nuestro país 935.000.000 de yens, equivalentes a 4.020.500.000 guaraníes para ser destinados a la construcción del Centro Paraguayo Japonés, donde nuestra Asociación contará con espacio físico para sus oficinas, para mejor atención de sus numerosos asociados. El edificio debe estar terminado para comienzos de 1988. El Centro Paraguayo-Japonés de Entrenamiento para Recursos Humanos, contará con Areas de Computación, Idiomas, Artesanía, Educación Física y Cultura Japonesa, Biblioteca, Sala de Información, Auditorio, etc. La administración correrá a cargo de la Municipalidad de Asunción, conjuntamente con la Asociación Paraguayo-Japonesa, Asociación de Ex-becarios, Federación de Asociaciones Japonesas, etc.



6. PROGRAMA DE FESTEJOS DEL CINCUENTENARIO DE LA INMIGRACION JAPONESA AL PARAGUAY

Lic. Stella de Torales

Dando inicio al programa de festejos del cincuentenario de la inmigración japonesa al Paraguay, el día miércoles 1º de octubre en la Ciudad de La Colmena, distante a unos 110 km. de la capital, se llevaron a cabo los actos centrales, ya que ha sido la ciudad donde se instalaron hace 50 años los primeros colonos japoneses. Actualmente, es una de las localidades más florecientes y donde se producen los mejores productos agrícolas.

Las actividades desarrolladas fueron como sigue:

-A las 09:30 hs. llegaron sus Altezas Imperiales y se trasladaron a la Parroquia San Francisco Javier. Allí hicieron uso de la palabra el Presidente de la Comisión de Festejos Don Futashi Maehara y el Excmo. Señor Embajador del Japón Don Jutaro Sakamoto.

-A las 09:40 hs.: encabezados por sus Altezas Imperiales se presentaron ofrendas florales en homenaje a los difuntos. A las 09:50 hs. se clausuró la primera parte de los festejos.

-A las 10:00 hs. se trasladaron sus Altezas Imperiales en medio de saludos con banderitas de ambos países (Paraguay-Japón) e ininterrumpidos aplausos, al palco oficial, acompañados de su comitiva, autoridades locales e invitados especiales. Se dió inicio a los actos programados con el canto de los Himnos Nacionales Paraguayo y Japonés.

Posteriormente hicieron uso de la palabra el Intendente Municipal, Don Tomás Montiel, haciendo entrega de la llave de oro de la ciudad, el Ing. José Akira Mitsui dando lectura a la resolución de la Honorable Junta Municipal, la señorita Agustina Miranda González, Directora del Honorable Consejo Nacional de Coordinación Económica de la Presidencia de la República y el Excmo. Señor Ministro de Hacienda, General Don César Barrientos, dando la bienvenida a sus Altezas Imperiales.

-A las 10:50 hs. hizo uso de la palabra Su Alteza Imperial, el Príncipe Hitachi y entregándose un obsequio a Su Alteza Imperial la Princesa Hanako.

-A las 11:00 hs., se realizó un emotivo desfile, donde participaron escolares, estudiantes, colonos, militares de la localidad.

Finalizado el desfile, se trasladaron sus Altezas Imperiales y comitiva a la Asociación Cultural Paraguay-Japón para el descubrimiento de una "Placa Recordatoria".

-A las 12:30 hs. se pasó a visitar la granja del colono japonés Sr. Miyamoto, donde se sirvió un almuerzo, finalizando así las actividades programadas en La Colmena.

7. MEJOR EGRESADA DE LA UNIVERSIDAD NACIONAL DE ASUNCION

Prof.Dra. María T. Rivarola de Valiente

El 24 de setiembre de 1986, día de la Universidad Nacional, se realizaba el acto de colación de grados en el Consejo Nacional de Deportes, grande fue nuestra sorpresa cuando la Mejor Graduada de toda la Universidad era la Dra. Mie Miyazato (hoy flamante Sra. de Arakaba, su marido es el Dr. Akira Arakaba, médico de la Colonia Pirapó). Conversábamos con la Dra. Miyazato y nos contaba que es "nisei", primera generación de japoneses nacida fuera del Japón, viven en la Colonia "La Paz" (Itapúa), fue cuando decidimos hacerle un reportaje para "DOMO ARIGATO".

D.A. ¿Qué sintió cuando fue elegida mejor graduada de la Universidad Nacional?

M.M. Me sentí plenamente realizada con respecto a mis padres y espero haberles dado una satisfacción a ellos, que me han proveído de ayuda infinita.

D.A. ¿Como descendiente de japoneses, sintió algo especial?

M.M. Sentí que algún día quisiera prestar mis servicios médicos a los colaboradores japoneses, porque ello forma parte de mí.

D.A. Y como mujer?

M.M. Quisiera seguir trabajando como profesional médico, sin descuidar de formar un hogar alegre.

D.A. ¿A qué especialidad se va a dedicar y si piensa especializarse en el Japón?

M.M. Me gusta la Clínica Médica como especialidad, a pesar de que muchas de las especialidades por las que voy rotando en el internado me gustan. Pienso especializarme en el Japón.

D.A. ¿Nos daría algún mensaje para la Asociación de Ex-Becarios del Japón?

M.M. Quisiera escuchar las experiencias vividas por ustedes en el Japón, para que así sepamos manejarnos allá, si tenemos la suerte que tuvieron.

D.A. Nos despedimos de Mie Miyazato, con la sensación de tener en frente a todas nuestras conocidas, médicas japonesas chiquitas, muy activas y con muchos conocimientos, prestas a acudir adonde sea necesario.



8. ACTIVIDADES REALIZADAS

- 23-I-86 : Reunión de la C.D. en JICA, con Jefes de Expertos, sobre llegada de grupo de Expertos para el estudio de construcción del Centro de Desarrollo de Recursos Humanos.
- 28-I-86 : Reunión de la Misión Japonesa para la Construcción del Centro de Recursos Humanos con la Comisión Directiva de la Asociación, sobre habilitación de espacio físico en el nuevo Centro.
- 21-III-86 : Cena mensual, realizada en el domicilio de la Lic. Stella de Torales.
- 22-IV-86 : Despedida al Sr. Ojima y Sra. Restaurant "La Preferida", con asistencia total de la Comisión Directiva.
- 25-IV-86 : Natalicio del Emperador Hiroito. Cena en el Restaurant "La Preferida". Asistencia de 110 socios.
- 25-VI-86 : Cena de la Amistad, realizada en el Restaurant "Suki Yaki", contando con la asistencia masiva de Ex-becarios.

- 9-VIII-86 : Cena de despedida a la Dra. Clelia Fariña, recientemente nombrada a desempeñar funciones en la Embajada de Sudáfrica.
Restaurant "La Paraguayita".
- 13-VIII-86 : Recepción en honor del Dr. Takekazu Ogura, Presidente de la Comisión del Gobierno del Japón para la Política y Evaluación de Asistencia Oficial para el Desarrollo (ODA), Sr. Tatsuo Yamaguchi, Ex-Embajador del Japón en el Paraguay y Director General del Dpto. de Asuntos Latinoamericanos y del Caribe del Ministerio de Relaciones Exteriores del Japón y el Sr. Hiroshi Ota, Director General Adjunto del Dpto. de Cooperación Económica del Ministerio de Relaciones Exteriores del Japón, ofrecida por el Sr. Embajador del Japón y Sra. de Sakamoto. Asisten miembros de la Directiva de la Asociación.
- 14/15-VIII-86: Excursión a Itaipú, Colonia Japonesa del Iguazú.
Foz de Iguazú.
- 30-IX-86 : Viaje de la Comisión Directiva a "La Colmena" para participar de los Festejos del Cincuentenario de la 1ª. Inmigración Japonesa al Paraguay.
- 2-X-86 : Entrevista de la Comisión Directiva con sus Altezas Imperiales, el Príncipe Hitachi y la Princesa Hanako.
Hotel Excelsior.
- 15-X-86 : Cena ofrecida por la Comisión Directiva a S.E. el Sr. Embajador Paraguayo en el Japón, Dr. Carlos Van Krasen y al Sr. Jalei García, quienes viajaban al Japón. El primero, a reanudar funciones y el segundo, a representar a la Asociación en la Reunión de Presidentes de Asociaciones entre los 8 mejores seleccionados en el mundo.
- 31-X-86 : Brindis aniversario con exhibición del Video-Cassette, producido por la Asociación, en el Club Deportivo de Puerto Sajonia.
- 14-XI-86 : Reunión Social en el domicilio del Ing. Juan Carlos Barrios. Asistencia de miembros y amigos de la Asociación.
- 21-XI-86 : Cena con exhibición del Video- Cassette, en el domicilio del Ing. Juan Carlos Barrios. Asistencia de 30 personas, aproximadamente.

9 MOVIMIENTO DE LA CAJA DE LA ASOCIACION DE EX-BECARIOS
PARAGUAYOS EN EL JAPON. (19-I/30-XI-86)

INGRESOS		EGRESOS	
Saldo en caja -LLOYDS BANK	253.011	Actividades sociales: Aporte de la Asociación	1.084.400
Aporte del J.I.C.A.	1.387.000	Utiles de Escritorio	89.180
Intereses cobrado-Caja de ahorro LLOYDS BANK	98.262	Comisión Cobrador	51.750
<u>Cuotas Sociales</u>	<u>207.000</u>	Visita de observación a la Colonia Iguazú, AGRIEX e ITAIPU	430.590
		Personería Jurídica Decreto Nº 18.464/86	99.000
		Elaboración del video cassette de las actividades de la Asociación y video cassette	144.000
	<u>1.945.273</u>		<u>1.898.920</u>

RESUMEN

TOTAL DE INGRESOS	1.945.273
TOTAL DE EGRESOS	1.898.920
SALDO EN CAJA	<u>46.353</u> \$s.

Asunción, 30 de Noviembre de 1986.

JALEI GARCIA
Presidente

Prof. CESAR R. VELAZQUEZ
Tesorero

CARNET Nº	NOMBRE Y APELLIDO	CARNET Nº	NOMBRE Y APELLIDO
1	Ing. Horacio ABDALA	71	Merardo LEON
2	Arq. Carlos ARIAS COHL	72	Ing.-Agr. Miguel A. LOPEZ
3	Dr. Arnaldo ALVARENGA	76	Ing. Takao MORIYA
6	Américo AGUILAR	81	Dr. Raul B. AVILA
4	Dr. Rubén Darío AVILA	85	Dr. Eliodoro MELGAREJO IDOYAGA
8	Dra. Elisa ANTOLA	87	Jacinto MATTIUDA
10	Ing. Juan J. ASHWELL	88	Sabino A. MONTANARO
12	Aldo Arel BCGADO	90	Epifanio NOGUERA GAMARRA
14	Ing. Juan Carlos BARRIOS	93	Lic. Luz A. PEREIRA DE ROJAS
5	Dr. Miguel Aristides AGUILAR A.	100	Prof. Dra. María T. RIVAROLA DE VALIENTE
19	Dr. Rolando ERIZUELA	104	Dra. Yolanda RICHER
20	Dr. Carmelo BLASCO	105	Dr. Francisco ROMERO
22	Ing. Pedro CALABRESE	111	Arq. Gustavo A. RAMIREZ ARCE
23	Francisco CAMACHO	120	Dra. Regina SERRA
26	Lic. María E. COLLAR ORTIZ	122	Lic. María Teresa SANTIACRUZ
27	Lic. Carlos H. CIBILS	125	Prof. Carlos SCORZARA FAVIO
36	Arq. Alberto DIEZ PEREZ	126	Dra. Elfrida de SALDIVAR
37	Prof. Dr. Antonio DUCROT	134	Cnel. Méd. Cristobal VALIENTE AYALA
39	Dr. Desiderio ENCISO	135	Lic. Daisy LOPEZ DE VALINOTTI
42	Dr. Miguel ESPINOZA FRANCO	143	Dr. Antonio VERA MARTINEZ
44	Ing. Héctor FARIÑA BENITEZ	145	Gilberto Isaac GODOY
45	Dra. María FRESCO DE BLASCO	158	Cándido Núñez
46	Dr. Magno FERREIRA FALCON	159	Dra. Hilda J. BERNAL ALONZO
47	Florencio FERREIRA	161	Dra. María Angela BALMACEDA
48	Dra. Victoria FRUTOS	163	Dra. Gloria M.A. CACERES BOGGINO
50	Jalei GARCIA	164	Dr. Mario MOREL PINTOS
51	Dr. Aníbal GAMARRA	165	Dra. Noemí E. SALDIVAR DOCTERS
52	Ing. Carlos H. GACNA	170	Dr. Angel A. GIMENEZ M.
54	Dr. Rigoberto GAUJO	171	Dr. Angel María GONZALEZ
55	Lic. M. Stella GONZALEZ DE TORALES	176	Hatsuji NAGAI
56	Amílcar B. GODOY	178	Dra. Ida VALINOTTI FIORE
60	Dr. Diego HAYES SARUBBI	181	Ing. Tonto HANANO
62	Dr. Roberto BELOTO	182	Héctor Raul VEGA ALMIRON
65	Lic. Noemí KINZLE DE SARUBBI	183	Luis A. ROJAS

<u>CARNET Nº</u>	<u>NOMBRE Y APELLIDO</u>	<u>CARNET Nº</u>	<u>NOMBRE Y APELLIDO</u>
184	Roberto SALINAS	246	José María FLEITAS BELOTTI
193	Ing. Hugo HALLEY MERLO	247	Luis Alberto LOPEZ CAÑETE
28	Concepción CRISTALDO	248	Ing. Agr. Juan Carlos SCAVONE MONTALBETTI
185	Dr. Luis A. VELY	249	Dr. Alberto IBARRA LEZCANO
192	Lic. Ramona ORTIZ DE VELAZQUEZ	253	Lic. Nidia FIGUEROA DE ARIAS
195	Dra. Mirta CASTELLANI	9	Prof. Amadeo AVALOS Centro Entrenamiento V.
196	Vicente AZUAGA	15	Prof. Roberto BATELLA
198	Dr. Darío SELLITTI	17	Prof. Leandro BARRIOS
199	Dr. Carlos Alberto KNAPPS	25	Prof. Eugenio CENTURION RODAS
200	Ing. Agr. Geraldo C. LOPEZ ZARATE	24	Prof. Eugenio CASELLI PORTILLO
203	Ing. Juan MOLINAS	70	Prof. Alberto LARA NAVONE
204	Ing. Hernán SOSA	73	Prof. Pedro Nolasco AMARILLA
206	Gustavo ESPINOLA	78	Prof. Gualberto MENDEZ MENDOZA
207	Dr. Adolfo GALEANO	98	Lic. Jesús María FUERRA DEL FUERTO
208	Dra. Eva GRANCE	106	Miguel A. RUIZ DIAZ
209	Dra. Estela RIVEROS	107	Prof. Francisco ROLON AMARILLA
210	Dra. Miguella BELTRAN	112	Prof. Herminio RUIZ DIAZ
213	Dra. Perla ROMAN	118	Prof. Catalino RODRIGUEZ
217	Arq. Nilda JIMENEZ DE LA SOBERA	119	Prof. Tomas SANTACRUZ BENITEZ
222	Alan ARCE	121	Prof. Pablo Rubén SOSA
223	Oscar TORRES	123	Prof. Braulio SANTACRUZ BENITEZ
224	Dionisio Antonio VAZQUEZ	138	Prof. César Ramón VELAZQUEZ BENITEZ
225	Abel Herminio ROMERO	139	Prof. Rafael Bernardo VERA
226	Ing. Luis CATTEBECKE	141	Prof. Arq. Juan E. FRANCO
227	Gregorio Alberto GIMENEZ	146	Prof. Juan Sinfoniano DENIS VILLASANITI
229	Oscar GONZALEZ	147	Prof. Silvio Angel VAZQUEZ CABALLERO
230	Alejandro BENEAS	148	Dr. Eusebio FARIÑA
231	Ing. Jorge RUIZ OLAZAR	149	Prof. Cecilio MONTEIL ARIAS
233	Nidia GINI DE MEYER	150	Prof. Gregorio Narciso BENITEZ ALMADA
235	Antonio KASAMATSU	152	Prof. José María OJEDA DIAZ
240	Arnaldo ARGUELLO	153	Prof. José QUINTANA LEGUIZAMON
241	Dra. Juana Agripina de SARUBBI	190	Prof. Alberto AVALOS
242	Dra. María Ester de MARTINEZ	191	Ing. Agr. Higinio Evelio MOLINAS AVALOS
244	Ing. Eduardo KISHI	94	Dr. Flaviano OJEDA V.
245	Arq. Venus de PATIÑO	187	Lic. Marta DUARTE

10. AL UNDECIMO AÑO DE VIDA

Lic. Daisy de Valinotti

El tiempo.....corre inexorablemente, pasan los días, corren los años y he aquí que sin apenas darnos cuenta han pasado once años. Once años desde aquella visita que nos realizara el aquél entonces Embajador en el Japón, Dr. Desiderio Enciso, quien nos ayudara e incentivara a fundar nuestra Asociación de Ex-Becarios Paraguayos en el Japón, un 24 de octubre de 1975.

Desde aquel entonces se han realizado numerosas actividades como:
-la creación de los Estatutos;
-su modificación, cuando se creyó necesario ampliarlo para el mejor desenvolvimiento de los Ex-Becarios.

Hoy, por hoy, nuestra Asociación, gracias a sus asiduos socios, que lo constituyen ustedes, ha llegado a granjearse la simpatía y el cariño de propios y extraños.

Asímismo, cabe mencionar que gracias a las buenas y fructíferas relaciones con la Embajada del Japón en nuestro país, la Oficina del J.I.C.A y por que no decirlo la colectividad japonesa en nuestro medio, se ha logrado un espacio físico exclusivo en el nuevo Centro de Recursos Humanos, a construirse para 1987.

Con sumo placer, hemos participado de los preparativos y festejos del "Cincuentenario de la 1ª Inmigración Japonesa al Paraguay" y una de las realizaciones de este año, como adhesión de la Asociación fue la visita a las Colonias Japonesas del Iguazú, que una vez más nos demostró que paraguayos y japoneses somos ejemplo de confraternidad.

También cabe señalar la importancia y el prestigio que está cimentando nuestra Asociación, al ser invitado, entre las 8 mejores Asociaciones en el mundo, nuestro Presidente a concurrir a una reunión celebrada en Tokio, el mes de octubre del corriente año, obteniendo óptimos resultados.

Es imposible trasladar al lápiz y al papel todos los momentos vividos a lo largo de estos once años, pero el amor y el cariño que tenemos a la Asociación nos da energías para seguir luchando en aras de una Asociación más grande, unida y feliz.

Compañero Ex-Becario, le invito a compartir con nosotros esta alegría: El de pertenecer a la Asociación de Ex-Becarios Paraguayos en el Japón. Si aún no está asociado ¡¡¡ASOCIESE!!!

Domo Arigato Gozaimazu.

11. SEMINARIO DE PRESIDENTES DE ASOCIACIONES DE EX-BECARIOS. (TOKIO-JAPON, 13-22-X-86)

Jalei García

Respondiendo a una honrosa invitación recibida de la AGENCIA DE COOPERACION DEL JAPON (J.I.C.A.), me cupo el honor de participar en representación de nuestra querida Asociación, en el SEMINARIO DE PRESIDENTES DE ASOCIACIONES DE EX-BECARIOS, realizado en Tokio-Japón, desde el 13 al 22 de Octubre de 1986.

A este Seminario han sido invitados los Presidentes de Asociaciones de 10 países, del total de 23 Naciones en las cuales existen actualmente Asociaciones de Ex-Becarios. El hecho de que nuestra Asociación haya sido seleccionada para participar en tan importante evento constituye, sin duda alguna, un honor que apreciamos en todo su valor.

Los Presidentes de Asociaciones de Ex-Becarios que asistieron al Seminario corresponden a los siguientes países (en orden alfabético):

- Argentina
- Brasil (San Pablo)
- Filipinas
- Indonesia
- Kenya
- Papua Nueva Guinea
- Paraguay
- Perú
- Singapur
- Sri Lanka

El Seminario tuvo como importante objetivo la promoción de las relaciones de cooperación, no solamente entre las Asociaciones de Ex-Becarios sino también entre las Asociaciones y J.I.C.A., por cuanto J.I.C.A. considera que las Asociaciones de Ex-Becarios pueden cumplir un rol importante en promover los programas de cooperación técnica en sus respectivos países.

De acuerdo a los informes más recientes, Japón ha aceptado más de 60.000 participantes en sus programas de entrenamiento, desde 1954.

Los Ex-Becarios, después de obtener su capacitación en las más diversas especialidades, regresan a sus países y aplican, con empeño y responsabilidad, los conocimientos adquiridos en el Japón, contribuyendo, de ese modo, al desarrollo de sus respectivos países.

A la fecha, nuestra Asociación cuenta con 487 socios, que tuvieron la excepcional oportunidad de mejorar su capacitación en el gran país del Sol Naciente.

Las actividades del Seminario fueron desarrolladas en base a un interesante programa que incluyó, en apretada síntesis, los siguientes puntos:

- Presentación de las actividades de las Asociaciones.
- Discusiones sobre la colaboración entre las Asociaciones y J.I.C.A.
- Discusiones sobre futuras actividades de las Asociaciones.
- Viajes de observación.
- Conclusiones y recomendaciones.

Cabe destacar que las Ceremonias de apertura y clausura del Seminario fueron brillantes y solemnes, en cuyas ocasiones se pronunciaron importantes discursos a cargo de las máximas autoridades de J.I.C.A.

En el transcurso del Seminario, tuve el honor de presentar, en Sesión Plenaria, el informe de actividades de nuestra Asociación, desde su fundación, el 24 de Octubre de 1975.

El informe, que consta de 35 páginas, comprende detalladamente los siguientes aspectos:

- Esquema de Organización de la Asociación: Antecedentes de la Fundación, organización, Estatutos Sociales, cantidad y lista de Socios.
- Actividades realizadas en el pasado y en el año fiscal 1986: Recursos Financieros, Presupuesto, Ingresos y Egresos.
- Plan de actividades para el año 1987.
- Propuestas, Sugerencias y Recomendaciones a J.I.C.A.

Me es grato informar a los apreciados compañeros Ex-Becarios que como parte del informe correspondiente a nuestra Asociación tuve la oportunidad de presentar un Video Cassette, en colores, de 21 minutos de duración, filmado en nuestro país, en idiomas español e inglés, en el cual se documentan las actividades parciales de los Ex-Becarios en las diversas Instituciones donde aplican sus conocimientos.

La película fue recibida con beneplácito y admiración por las autoridades de J.I.C.A y Presidentes de las Asociaciones, mereciendo los más calurosos aplausos y elogiosas felicitaciones por registrar tan elocuentemente las actividades de los Ex-Becarios y por ser, además, la única Asociación que tuvo la feliz iniciativa de presentar un video-cassette. Cabe mencionar que la citada película documental fue filmada bajo la dirección de los Ex-Becarios, Profesora Daisy López Cáceres de Valinotti y Señor Hugo Sisa, especialistas en la materia.

CONCLUSION:

Deseo destacar que el Seminario fue de sumo interés en todos sus aspectos para los Presidentes de las Asociaciones, por la oportunidad de intercambiar experiencias y ampliar sus perspectivas en beneficio de sus futuras actividades.

Los Presidentes de las Asociaciones expresaron su sincero aprecio y gratitud a las autoridades de J.I.C.A. por la excelente organización del Seminario y la magnífica atención a los asistentes a tan magno evento.

Decreto N° 18.464.-

POR EL QUE SE APRUEBAN LOS ESTATUTOS SOCIALES Y SE RECONOCE LA PERSONERÍA JURÍDICA DE LA ENTIDAD DENOMINADA "ASOCIACION DE EX-BECARIOS EN EL JAPON".

Asunción, NOVIEMBRE 17 de 1986.

VISTO: La presentación hecha al Ministerio del Interior, en fecha 29 de Julio de 1986 (Expte. N° 1009), por el Sr. Jalei García, en representación de la entidad denominada "ASOCIACION DE EX-BECARIOS PARAGUAYOS EN EL JAPON", en la que solicita la aprobación de los Estatutos Sociales y el reconocimiento de la Personería Jurídica de la misma; los informes favorables de la Inspección General de Hacienda, Contraloría Financiera de la Nación, Fiscalía General del Estado y Asesoría Jurídica del Ministerio del Interior,

EL PRESIDENTE DE LA REPUBLICA DEL PARAGUAY

DECRETA:

- Art. 1º. Apruébanse los Estatutos Sociales de la entidad denominada "ASOCIACION DE EX-BECARIOS PARAGUAYOS EN EL JAPON", y autorízase el funcionamiento de la misma en carácter de Persona Jurídica, de acuerdo a lo establecido en los Arts. 33, Inc. 5º y 45 del Código Civil y conforme consta en la Escritura N° 85 protocolizada en el Registro Público a cargo de doña Visitación de los Angeles Martínez de Santacruz, en fecha 19 de abril de 1986.
- Art. 2º. Comuníquese, publíquese y dése al Registro Oficial.

FIRMADO: ALFREDO STROESSNER
" Sabino A. Montanaro.

Es copia.

P. NUESTRO NUEVO ESTATUTO:

CAPITULO I

CONSTITUCION, DENOMINACION, DURACION Y DOMICILIO

- Art. 1º - Constitúyese una Asociación de carácter socio-cultural que nuclea a los Ex-becarios paraguayos en el Japón que acordaron integrarla. Esta Asociación engrosará continuamente el número de sus asociados con los nuevos ex-becarios paraguayos en el Japón que deseen incorporarse a ella.
- Art. 2º - Otórgase a la citada nucleación la denominación de "ASOCIACION DE EX-BECARIOS PARAGUAYOS EN EL JAPON".
- Art. 3º - La misma se registrá por este Estatuto y se la designará en adelante como "LA ASOCIACION".
- Art. 4º - Esta funcionará por tiempo indefinido, sin perjuicio que la Asamblea de socios pueda acordar su disolución con arreglo a este Estatuto.
- Art. 5º - La Asociación fija domicilio en la ciudad de Asunción y podrá mantener representaciones en cualquier punto de la República.

CAPITULO II

DE SUS FINES

- Art. 6º - La Asociación tiene por finalidades principales las siguientes:
- a) Establecer y fomentar vínculos de amistad y compañerismo entre los ex-becarios paraguayos en el Japón, con prescindencia de cualquier consideración de carácter religioso, político o racial.
 - b) Mantener vivos los lazos espirituales establecidos entre los ex-becarios paraguayos en el Japón y la nación nipona durante la permanencia de los primeros en el Japón.
 - c) Promover las actividades culturales profesionales y técnicas entre sus asociados y entre éstos y las instituciones japonesas correspondientes.
- Art. 7º - Para alcanzar estos fines podrán utilizarse, entre otros, los medios siguientes:
- a) Promover reuniones sociales, culturales y deportivas entre los asociados;
 - b) Celebrar apropiadamente el cumplimiento de las siguientes conmemoraciones: Cumpleaños de S.M. el Emperador del Japón, Día de la Amistad, Día Aniversario de la Asociación y Fin de Año.
 - c) Realizar excursiones al interior o exterior del país, buscando facilitar la participación del mayor número posible de asociados y familiares.
 - d) Tomar contacto con entidades similares de los otros países, a fin de programar la realización conjunta de actividades tendientes a resaltar los vínculos con el Japón.
 - e) Agasajar a los asociados que fueren objeto de distinciones especiales en su actividad profesional.
 - f) Presentar los saludos de circunstancia en el día nacional del Japón al Embajador de dicho país, con el mayor número posible de asociados, encabezados por la Comisión Directiva.
- Art. 8º - Como un medio eficaz para la consecución de sus fines, la Asociación llevará a cabo las acciones necesarias para la obtención de un local adecuado, sea mediante su compra o alquiler, o a través de donación, préstamo u otro, así como para dotarlo del mobiliario necesario y de una biblioteca.

CAPITULO III
DE LOS SOCIOS

- Art. 99 - Podrán ser socios de la Asociación solamente los ex-becarios paraguayos en el Japón.
- Art. 100 - Los socios gozan de los siguientes derechos:
- a) Elegir o ser elegidos para los cargos directivos sin más requisitos que su idoneidad, debiendo estar al día en el pago de las cuotas sociales.
 - b) Intervenir con voz y voto en las Asambleas.
 - c) Peticionar a las autoridades de la entidad y formular sugerencias acerca de las actividades destinadas a cumplir los fines de la misma; y
 - d) Renunciar a la Asociación cuando lo estimen conveniente.
- Art. 119 - Son deberes de los Asociados:
- a) Realizar con puntualidad el pago de la cuota social.
 - b) Respetar este Estatuto y las resoluciones de la Comisión Directiva.
 - c) Asistir a las Asambleas de la Asociación.
 - d) Votar en las mismas.
 - e) Aceptar y desempeñar con diligencia los cargos a que fueran elegidos en las Asambleas, de no mediar razones de fuerza mayor que le imposibiliten hacerlo; y
 - f) Cooperar en las acciones destinadas a alcanzar los objetivos de la Asociación.

CAPITULO IV
DEL REGIMEN ECONOMICO

- Art. 129 - El patrimonio de la Asociación de ex-becarios paraguayos en el Japón estará formado:
- a) Con las cuotas sociales de los socios.
 - b) Con las donaciones y legados que se le hicieren.
 - c) Con los aportes de los socios, simpatizantes y Entidades nacionales o extranjeras.
 - d) Con el producido de actos sociales y culturales.
 - e) En general, con cualquier otro medio que se ajuste a los presentes Estatutos.
- Art. 139 - La Asamblea Ordinaria fijará anualmente el monto de la cuota social, la cual será percibida en forma semestral.

CAPITULO V
DEL REGISTRO DE LAS ACTIVIDADES

- Art. 149 - La Comisión Directiva llevará los siguientes libros:
- a) De Actas de Asambleas.
 - b) De Actas de sesiones de la Comisión Directiva
 - c) De registro de Asociados
 - d) De Contabilidad, conforme al sistema contable llevado de acuerdo a las reglamentaciones que sobre el particular se dicten.

- Art. 159 - En los libros de registros de asociados se asentarán los siguientes datos de cada asociado: número de orden, nombre y apellido, ocupación, fecha de nacimiento, estado civil, estudios cursados, domicilio, fecha de ingreso en la Asociación, número y clase de documento de identidad, fecha de ida al Japón y vuelta y estudio realizado en dicho país.
- Art. 169 - Los libros de registro contable que debe llevar la Asociación son:
- a) Libro de Inventario
 - b) Libro Diario
 - c) Libro de balances de sumas y saldos.

CAPITULO VI

DE LAS AUTORIDADES

- Art. 179 - Las autoridades de la Asociación encargadas de la dirección institucional y administrativa son:
- a) Las Asambleas Generales de socios;
 - b) La Comisión Directiva
- Art. 189 - La Asamblea designará Presidentes Honorarios y Consejeros, de entre personas espectables que estén trabajando por el afianzamiento de la amistad paraguayo-japonesa.

SECCION I

DE LAS ASAMBLEAS

- Art. 199 - Las Asambleas Generales constituyen la autoridad máxima de la Asociación y podrán ser Ordinarias y Extraordinarias. Para que tengan validez sus resoluciones, deberán ser convocadas y realizadas en tiempo y forma de acuerdo con las disposiciones legales y estos Estatutos.
- Art. 209 - Las Asambleas Ordinarias tienen las siguientes características:
- a) Se llevarán a cabo a más tardar el último domingo del mes de julio de cada año, pudiendo ser el Balance anual cerrado hasta un mes antes de la Asamblea;
 - b) Serán convocadas por la Comisión Directiva con una anticipación mínima de 15 días respecto a la fecha de su realización, publicándose el aviso de Asamblea en uno de los diarios de mayor circulación de la Capital;
 - c) La Comisión Directiva formulará el Orden del Día, el cual deberá comprender la lectura de la Memoria y del Balance con el Cuadro de Resultados..
- Art. 219 - Son atribuciones de las Asambleas Ordinarias:
- a) Elegir a los miembros de la Comisión Directiva;
 - b) Aprobar y observar las Memorias y Balances presentados por la Comisión Directiva;
 - c) Tomar en consideración los asuntos que le someta la Comisión Directiva;
 - d) Designar de su seno a dos socios, quienes suscribirán en señal de aprobación el Acta de la Asamblea en su representación, conjuntamente con el Presidente y el Secretario.
- Art. 229 - Las Asambleas Extraordinaria tienen las siguientes características:

- a) Serán convocadas por la Comisión Directiva por su propia iniciativa o a pedido del 20%, como mínimo del total de asociados;
- b) Se podrán llevar a cabo en cualquier momento con el objeto de considerar exclusivamente los puntos señalados en el Orden del Día respectivo.

- Art. 239 - La consideración de los asuntos relacionados con la modificación de estos Estatutos es privativa de las Asambleas Extraordinarias.
- Art. 249 - Las resoluciones de las Asambleas se tomarán por simple mayoría de votos de los presentes en la sesión, salvo los asuntos mencionados en el artículo anterior y la cuestión de inmuebles de la Asociación. Para todas estas resoluciones será imprescindible el voto favorable de los dos tercios de los presentes. También se requerirá el mismo número de votos para los pedidos de reconsideración de resoluciones aún no ejecutadas. Para los cómputos de votos las abstenciones serán consideradas como ausencia. Las resoluciones de las Asambleas adoptadas en conformidad con las disposiciones legales y estatutarias son obligatorias para todos los socios.
- Art. 259 - El quorum para las sesiones de las Asambleas queda fijado en un número equivalente a la mitad más uno del total de socios inscriptos en el Registro de Asociados al 31 de Marzo de cada año para las Asambleas Ordinarias. Para las Extraordinarias, el cómputo se hará sobre las inscripciones a la fecha de las respectivas convocatorias.
- Art. 269 - En las convocatorias se señalarán la fecha, el lugar y la hora de realización de la Asamblea y las sesiones de la misma se iniciarán en la hora indicada, si se contare con el quorum correspondiente. No habiendo quorum, la Asamblea se iniciará válidamente una hora después con cualquier número de socios presentes.
- Art. 279 - Las elecciones de autoridades así como las decisiones sobre puntos en que se ventilan asuntos personales se harán por votación secreta. Cuando la votación tenga por objeto la aprobación o rechazo de las gestiones de la Comisión Directiva, los miembros de este organismo no podrán intervenir en dicha votación. Los empates en todas las votaciones serán resueltos por el Presidente de la Asamblea, cargo éste que no podrán desempeñar los miembros de la Comisión Directiva cuando se tratare de Asambleas Ordinarias.
- Art. 289 - Las Asambleas Ordinarias serán presididas por un socio designado al efecto y como Secretario actuará el titular de ese cargo en la Comisión Directiva. Dos socios presentes serán designados por la misma Asamblea para suscribir en representación de todos el Acta respectiva, conjuntamente con el Presidente y Secretario de la misma.

SECCION II

DE LA COMISION DIRECTIVA

- Art. 299 - Las facultades de representación y gestión administrativa o institucional de la Asociación corresponden a la Comisión Directiva, que será electa por la Asamblea General Ordinaria.
- Art. 309 - La Comisión Directiva se compondrá de la siguiente manera:
- | | |
|--------------------------------|---------------------------|
| - Un Presidente; | - Un Pro-tesorero; |
| - Un Vice-Presidente; | - Tres vocales titulares; |
| - Un Secretario de Actas; | - Tres vocales suplentes; |
| - Un Secretario de Relaciones; | - Un síndico titular y |
| - Un tesorero | - Un síndico suplente |

Los suplentes entrarán a reemplazar a los titulares, previa designación, en los casos de separación, muerte, renuncia, suspensión, incapacidad o ausencia por más de dos meses del titular, con excepción del Presidente quien indefectiblemente será reemplazado por el Vice-Presidente. La Comisión Directiva podrá constituir Comisiones de Trabajo para fines específicos (social, cultural, deportivo), entre sus miembros o con participación de asociados que no formen parte de ella.

- Art. 319 - La Comisión Directiva nombrará delegado a un socio en Entidades Oficiales y Privadas donde hubiere más de cinco asociados con el objeto de servir de nexo entre la C.D. y los mismos.
- Art. 329 - La Comisión Directiva se reunirá una vez al mes, en forma ordinaria, sin necesidad de convocatoria previa. Extraordinariamente podrá reunirse cuantas veces lo crea necesario el Presidente o lo pidan dos de miembros titulares.
- Art. 339 - Cinco de los miembros titulares de la C.D. constituirán quorum para las sesiones, las que serán presididas por el Presidente, en ausencia de éste por el Vice-Presidente, o a falta de ambos por un Vocal en orden de prelación. El miembro que preside la reunión ostenta el derecho de emitir voto dirimente en caso de empate. La Comisión Directiva adoptará sus decisiones por simple mayoría de votos.
- Art. 349 - Corresponde a la Comisión Directiva, entre otras cosas, las siguientes atribuciones:
- a) Autorizar todos los contratos siempre que no sean relativos a asuntos reservados a la Asamblea General. La cuantía de estos contratos deberá ser fijada periódicamente por la Asamblea.
 - b) Cumplir y hacer cumplir las disposiciones de estos Estatutos y las resoluciones de las Asambleas.
 - c) Ejecutar cuantos actos sean necesarios para el normal desenvolvimiento de la Asociación, siempre de la Asociación, siempre que se ajusten a este Estatuto.
 - d) Convocar las Asambleas Ordinarias y Extraordinarias.
 - e) Examinar, modificar y aprobar el Balance General y Memoria que deben ser sometidos a consideración de la Asamblea General Ordinaria.
- Art. 359 - Los miembros titulares y suplentes de la Comisión Directiva durarán dos años en sus funciones, pudiendo ser reelectos para un período más.

DEL PRESIDENTE

- Art. 369 - El presidente de la Comisión Directiva tiene la representación legal de la Asociación, con facultad para delegarla con fines específicos en algunos de los miembros titulares de dicho Organismo. Es de su competencia:
- a) Presidir las sesiones de la Comisión Directiva y convocar las extraordinarias cuando lo creyera necesario o cuando existiere pedido de conformidad con las disposiciones estatutarias.
 - b) Suscribir con el Tesorero los contratos, cheques, pagarés, inventarios, balances, cuadro de pérdidas y ganancias. Con el Secretario las escrituras públicas, las Memorias, las presentaciones ante los poderes públicos, las correspondencias emitidas y las Actas de la Comisión Directiva.

DEL VICE-PRESIDENTE

- Art. 379 - El Vice-Presidente sustituye al Presidente en caso de renuncia o inhabilidad de éste, con sus atribuciones y deberes.

DEL SECRETARIO DE ACTAS

- Art. 389 - Es de competencia del Secretario de Actas:
- a) Levantar las Actas de las Sesiones de la Comisión Directiva y de las Asambleas y asentarlas en los libros correspondientes;
 - b) Confeccionar las Memorias y las convocatorias;
 - c) Confeccionar los documentos conforme a lo estipulado en estos Estatutos y atender todos los asuntos relativos a su cargo.

DEL SECRETARIO DE RELACIONES

- Art. 399 - Son funciones del Secretario de Relaciones:
- a) Llevar al día la correspondencia de la Asociación;
 - b) Suscribir con el Presidente los documentos de la Asociación que no sean propios de la Tesorería o de la Secretaría de Actas; y
 - c) Tener a su cargo las relaciones públicas de la Asociación.

DEL TESORERO

- Art. 409 - Es de competencia del Tesorero:
- a) Vigilar los procedimientos administrativos, las registraciones contables, las gestiones para la percepción de los fondos y haberes de la Asociación y controlar los gastos e inversiones autorizados por la Comisión;
 - b) Intervenir en la confección de los Inventarios, los Balances y Cuadros de resultados, firmando estos documentos y los demás de conformidad con estos Estatutos;
 - c) En general, participar en todos los asuntos relacionados con el movimiento de Caja de la Asociación.

DEL PRO-TESORERO

- Art. 419 - son funciones del Pro-Tesorero:
- a) Colaborará estrechamente con el Tesorero en sus funciones;
 - b) Reemplazará a éste en caso de inhabilidad

DE LOS VOCALES

- Art. 429 - a) Los vocales reemplazarán por nombramiento de la C.D. y en el orden de número de votos obtenidos en la Asamblea General Ordinaria en los puestos vacantes en la C.D.
- b) Cumplirán con las misiones que le fueran encomendadas por la C.D.

DEL SINDICO TITULAR Y DEL SINDICO SUPLENTE

- Art. 439 - a) El Síndico es el representante de la Asamblea de Socios ante la C.D. y tiene las funciones que le acuerda la Ley.
- b) El Síndico Titular y el Síndico Suplente serán elegidos en la Asamblea General Ordinaria de renovación de la C.D., pudiendo ser reelectos.

c) El Síndico Suplente entrará en funciones cuando quede vacante el cargo del Titular.

CAPITULO VII

DE LA DISOLUCION Y LIQUIDACION

- Art. 449 - Resuelta por Asamblea la disolución de la Asociación, la misma Asamblea designará tres socios para integrar la Comisión Liquidadora.
- Art. 459 - Esta Comisión Liquidadora deberá establecer el valor de venta de los bienes de uso, de bienes de cambio y otros, así como la forma de efectivizar los bienes de crédito. Las ventas podrán hacerse en subasta pública o privada. Para la subasta deberá intervenir necesariamente un Rematador Pública y para su realización deberán ser notificadas preferentemente los terceros acreedores de la Asociación, si es que los hubiere.
- Art. 469 - Hecha la liquidación y pagadas todas las deudas, el remanente de haberlo, será distribuido entre los asociados en partes iguales.
- Art. 479 - La Comisión Liquidadora deberá dejar constancia de sus resoluciones en el Libro de Actas de la Comisión Directiva. Todas sus decisiones las adoptará por simple mayoría de votos.

CAPITULO VIII

DE LAS DISPOSICIONES GENERALES, TRANSITORIAS Y FINALES

- Art. 489 - Las reformas de estos Estatutos se harán por Resolución de una Asamblea General Extraordinaria, convocada al efecto. Dicha reforma tendrá validez con el voto favorable de los dos tercios de los presentes. En el Orden del Día respectivo se especificarán los agregados, supresiones o cambios que se proyecten introducir.
- Art. 499 - El anterior artículo entrará en vigencia a partir del sexto mes posterior a la realización de la primera Asamblea Ordinaria.

8. AGRADECIMIENTO

A través de estas líneas, queremos hacer llegar nuestro agradecimiento al Excelentísimo Señor Embajador del Japón en nuestro país, Dr. Jutaro Sakamoto, al Director y funcionarios de JICA y a los funcionarios de la Embajada del Japón, por el apoyo constante que nos brindan en todos los emprendimientos organizados por nuestra Asociación.

Al Señor Braulio Santacruz, por cedernos el local del Centro de Entrenamiento Vocacional para nuestras actividades.

=====

"MANTENER VIVOS LOS LAZOS DE AMISTAD
ADQUIRIDOS POR LOS EX-BECARIOS CON EL
NOBLE PUEBLO DEL JAPON"

*Art. 2º de los Estatutos So-
ciales, Objetivo de la Aso-
ciación de Ex-Becarios Para-
guayos en el Japon.*

=====

(訳文)

ドウモアリガトウ

(現地で訳されたもの)

四国香川県高松市栗林公園

ドウモアリガトウ

パラグアイ国日本移民50周年記念祝賀
常陸宮殿下華子妃殿下御来訪記念特別号
1986年

ドウモアリガトウ

パラグアイ国帰国研修員同窓会機関誌

本号発行責任者：

Prof. Dra. Maria Teresa R. de Valiente

Prof. Daisy Lopez de Valinotti

目次

1. はじめに
2. 運営委員会
3. 日本人入殖地への旅行
4. 当会運営委員両殿下と会見
5. 文化センター建設予定地定礎式に常陸宮殿下華子妃殿下御出席
6. パラグアイ国日本移民50周年記念行事プログラム
7. アスンシオン国立大学主席卒業生
8. 当会の活動
9. 決算報告書及び賛助会員一覧表
10. 10周年に当たって
11. 各国帰国研修員同窓会会長セミナー

1. はじめに

1986年はパラグアイ国帰国研修員同窓会にとって実り多い一年でありました。我が会も創立11周年を数えるに至って居り、これにちなんで会の法人化を申請して居りましたところ本年11月17日付きの大統領令第18、464に依ってこれが認可されました。

又、将来我が会の会員も使用できる予定となっている。「人造りセンター」の建設に関する何回かの準備会合の開催、常陸宮殿下及び同妃殿下御出席のもとに挙行致しました同センターの定礎式の挙行等、誠に喜ばしい出来事が続きました。これ以外にも日本人移民50周年記念行事の

組織委員会には我が会を代表してJalei Garcia会長が参加致しました。さらに会長は日本を訪問して諸外国の帰国研修員同窓会の会長のセミナーに出席し、その際我が会の活動に関するビデオを紹介致しました。

尚、更に付け加えますと我々が前にも増して活発に活動している事を示すその他の多くの出来事が有りましたし、その上我々が更なる前進をし続ける為には分け隔て無く全帰国研修員各位の御支援を必要とするもので有り、これに期待したいと思います。常に前進する為に！

本年も終わりに近づくに当たって会員各位並びに其の御家庭に於きましては神の暖かい御加護と御恵みのもとき幸せなクリスマスと豊穰なる新しき年1987年を迎えられます事を心から御祈り申し上げ、新年には我が会の更なる発展の為に活動出来る事を期待致します。

オメデトウゴザイマス！

2. 運営委員会

名誉会長：一駐パラグアイ日本大使Dr. Jutaro Sakamoto閣下

一駐日パラグアイ大使Dr. Juan Carlos Hrase Von Bergen 閣下

会 長：Sr. Jalei Garcia

副 会 長：Prof. Dra. Maria Teresa Rivarola de Valiente

記 録 係：Prof. Daisy Lopez de Valinotti

渉 外 係：Dra. Ida Valinotti

会 計 係：Prof. Cesar Velasquez

会計係補佐：Lic. Amilcar B. Godoy

専任委員：Ing. Takao Moriya

Dr. Angel Maria Gonzalez

Lic. Stella de Torales

委 員：Dra. Elisa Antola

Dra. Yolanda Richer

Prof. Leandro Barrios

専任理事：Arq. Alberto Diez Perez

補欠理事：Lic. Carlos Cibils C.

願 問：Prof. Braulio Santaacruz

Dr. Miguel A. Aguilar A.

Cnel. D.S.M. (S.R.) Dr. Cristobal Valiente A.

3. 日本人入植地及びAGRIEXへの旅行

運営委員会が以前から計画して居た通り、8月15日の深夜にBANCO DE FOMENTO前からバス [La Encarnacena]号で出発しました。Puerto Pdte. Storressnerには朝食時に到着しました。残念ながら生憎の天候の為に予定を変更して Itaipu ダムを見学し、引き続いて昼頃に Colonia Yguazuの入植地に到着しました。ここでは入植地の事業所長 Makoto Sawayi氏、農業試験場所長 Tsuyoshi Eida 氏、学校長、帰国研修員及びJ.I.C.A.派遣専門家等の皆さんの盛大な出迎えがありました。

農業試験場の施設見学の後 J.I.C.A. 現地事務所所長の寄付して下さった Santa Gertrudis種の肉牛を使ったアサード（焼肉）と入植地の皆さんの心尽しの日本料理で盛大に歓待して頂きました。

その後は降りしきる豪雨にも関わらず我が会の勇敢なカメラマンが農場の栽培地の撮影に向かい、現在編集作業が進行中のビデオの為に取材をおこないません。残念ながら悪天候の為に道路が不通になり、AGRIEXの見学は今回取り止めになり、Foz de Yguazu 経由で帰路につき、予定を全部消化し得なかったにも関わらず今回の旅行は一応の成功を収めました。

4. 我が会の運営委員会、常陸宮殿下華子妃殿下御と会見

常陸宮殿下華子妃殿下の我が国御訪問の行事の一部として我が会の運営委員会との会見が予定されて居りました。この会見は10月2日17時にHotel Excelsior の12階貴賓室に於て行われました。我が会を代表して Jalei Garcia 会長が両殿下の御来訪を歓迎申し上げると共に日本に研修する機会があった事にお礼申し上げます。又、同時に運営委員会書記局の Daisy Valinotti、Ida Vaoinotti Fiore の両名が両殿下に記念品を献上しました。当初の予定時間を遙かに越えて両殿下は我々と親しく御歓談になり、研修当時の一人ひとりの専攻分野や現在の活動分野について御尋ねになり、更に殿下御自身のことをお話し下さいました。両殿下の気さくな御人柄に深い感銘を受けて退出しました。

5. 常陸宮殿下華子妃殿下「パラグアイ・人造りセンター」建設予定地定礎式に御出席

Arq. Alcerto Diez Perez

パラグアイへの日本人移住50周年記念式典の一部として去る10月2日の午後に Villa Guarani 地区 Plaza Luiz Alberto del Parana の近辺に将来建設が予定されて居る「パラグアイ・人造りセンター」の定礎式を日本の常陸宮殿下華子妃殿下が行われました。

この式典には Asuncion 市長 Porfirio Pereira Ruiz Diaz 将軍閣下、駐パラグアイ日本大使サカモト、ジュウタロウ閣下、パラグアイ、日本協会会長 Marcial Samaniego 将軍閣下を始めとする

来賓と一般参加者多数参加致しました。尚、パラグアイ人婦国研修員同窓会を代表しては Arq. Alberto Diez Perez氏が参加しました。

来賓のうちアスンシオン市長Porfirio Pereira Ruiz Diaz将軍閣下及び駐パラグアイ日本大使ジュウタロウ、サカモト閣下が祝辞を述べられました。

続いてセンターの定礎記念証書の署名並びに記念硬貨、写真、当日の新聞等の記念品をタイムカプセル内に封入する封入式が行われました。

このタイムカプセルは両殿下及び来賓によって建設地の中庭に埋められました。

尚、Villa Guarani に建設されるこのセンター内には日本政府の御好意により我が会の本部が入居する場所も確保される予定となっています。

注記： 日本本政府は我が会も入居するこの「パラグアイ、人造りセンター」建設の為に9億3千5百万円（40億2千50万グアラニー）の寄付を予定しています。建設工事は1988年始めに完了する予定で有ります。この「パラグアイ、日本人材開発センター」内には電子計算機施設、語学研修施設、手工芸研修施設、体育研修施設、日本文化紹介施設、図書室、情報室、講堂等を備える予定です。尚、このセンターの管理はアスンシオン市の管轄下でパラグアイ日本協会、婦国研修員同窓会、日本人会連合会等が担当することになって居ります。

6. パラグアイ国日本人移民50周年記念式典

Lic. Stella de Torales

パラグアイ国日本人移民50周年記念式典の最初の行事として10月1日にアスンシオン市から約110キロに位置し日本人移民がパラグアイに最初に足を踏み入れた場所であるLa Colmena市に於てその式典が行われました。この地は現在我が国に於ても特に繁栄の著しい土地であり、高い品質の農産物を生産する事で有名です。

この地における記念式典は次の様な順序で執り行われました。

- 一 午前9時30分には両殿下が San Francisco Xavier 教会に御到着になりました。ここでは記念式典実行委員会のFutashi Maehara 会長並びに駐パラグアイ日本大使Jutaro Sakamoto閣下が祝辞を述べられました。
- 二 9時40分には両殿下が慰霊碑に献花なさいました。9時50分には記念式典の第一部が終了しました。
- 一 10時00分両国（パラグアイ、日本）の国旗を打ち振り、絶え間無い歓声を上げる沿道の歓迎の人波の中を両殿下は随行員、現地当局者、来賓と共に試験場に向かわれました。パラグアイ及び日本の国歌斉唱により式典が始められました。式典に当たっては市長 Don TOMAS MONTIEL閣下が祝辞を述べた上で両殿下に市の金の鍵を献上し、Ing. JOSE AK

IRA MITSUI氏が市議会の決議を朗読し、大統領府経済調整委員会のAUGUSTINA MIRANDA GONZALES 女史が祝辞を述べ、財務大臣閣下 CESAR BARRIENTOS 将軍が両殿下の歓迎の辞を述べ、財務大臣閣下CESAR BARRIENTOS将軍が両殿下の歓迎の辞を述べました。

- 一 10時50分には常陸殿下が祝辞を述べられ、華子妃殿下には記念品が献上されました。
- 一 11時00分には現地の児童、生徒、入植者、軍人等が参加した盛大な分列式が行われました。

分列式の終了後両殿下及び随員はパラクアイ日本協会に向かわれここでは記念碑の除幕式が行われました。

- 一 12時30分に日本人入植者SR.MIYAZATO 氏の農場を訪問し、ここで昼食会が催されました。これに依ってLA COLMENA市での式典は全て終了しました。

7. アスンシオン国立大学主席卒業生

PROF.DRA.MARIA T.RIVAROLA DE VALIENTE

去る1986年9月24日(国立大学記念日)に国家体育委員会講堂に於て国立大学の卒業式が行われ、この中で特に目を引いたのは主席卒業生として表彰された医学部卒業のMIE MIYAZATO医師(現在は結婚されて姓がARAKABA になったとの事です。御主人は COLONIA PIRAPO 入植地の医師DR.AKIRA ARAKABA氏で有ります)。MIYAZATO医師に伺ったところ、御両親は現在 COLONIA LA PAZ 入植地に在住の日本人であり、従って本人は日系二世とのことなので本誌では特に興味を持ち、DOMO ARIGATOにインタビューの内容を掲載する事になりました。

問 国立大学主席卒業生に選ばれたお気持ちは如何ですか。

答 常に限り無い支援をしてくれた両親の期待に少しでも沿えた事を非常に満足に思っています。

問 日系人として特に何かお感じになった事はありますか。

答 日本はまぎれもなく私自身の一部ですので今後医師として役立つ事が出来れば幸いだと思えます。

問 女性としては。

答 医師として活躍して行きたいと思いますが明るい家庭を築く事もおろそかにしない様に心がけたいと思えます。

問 医師としてはどのような専門分野をお考えですか。又、日本で更に医学を研究する事に関して如何お考えですか。

答 研修医として色々な分野に関わって来て各々に興味有る特徴を見る事が出来ましたが特に臨床医学に関心を持ちました。特に日本で専門分野の研究をしたいと思えます。

問 「帰国研修員同窓会」に一言頂きたいと思いますが。

答 もし皆さんと同じ様な幸運に恵まれて日本に研修する機会が有りましたら日本での生活を有意義なものにする為に皆さんの経験を聞かせて頂ければ幸いです。

お話しを伺った後爽やかな印象を残して小柄ながら知識のかたまりの様な利発さを備え、常にまわりに役立とうとする心構えに満ちたMIE MIYAZATOさんと別れました。

8. 会の活動状況

1986年1月23日:

人造りセンターの建設の調査の為に近日中に到着する予定の専門家の件に関してJICAに於て派遣調査団団長と当会運営委員会が会合を開催した。

1986年1月28日:

人造りセンター建設に関する日本の調査団と当会の運営委員会と会合をもった。この会合で検討した議題は建設予定のセンター内で割り当てられる面積に関することであった。

1986年3月21日:

Lic. Stella de Torales さん宅で月例夕食会を開催した。

1986年4月22日:

Ojima 御夫妻の送別会を運営委員会全員の出席のもとにレストラン「La Preferida」で開催した。

1986年4月25日:

会員110名の出席を得て天皇誕生日祝賀夕食会をレストラン「La Preferida」で開催した。

1986年6月25日:

帰国研修員多数の出席を得てレストラン「Sukiyaki」に於て親睦夕食会を開催した。

1986年8月9日:

南アフリカ共和国駐在パラグアイ大使館への転勤するDra. Irelia Farinaの送別会をレストラン「La Paraguayita」で開催した。

1986年8月13日:

日本政府ODA 審議会会長TAKEKAZU OGURA氏、元駐パラグアイ日本大使で現在外務省中南米局長TATSUO YAMAGUCHI氏、外務省経済協力局HIROSHI OTA 氏の歓迎会が日本大使SAKAMOTO閣下御夫妻主催で行なわれた。当会役員が出席した。

1986年8月14日/15日:

Itaipuダム、Iguazu日本人移民入植地、Foz de Iguazu に旅行。

1986年9月30日:

「La Colmena」入植地で行われた日本人移民50周年記念式典に当会役員が出席した。

1986年10月2日:

当会役員がHotel Excelsior で常陸宮殿下華子妃殿下と会見した。

1986年10月15日:

近日中に日本に出発予定の駐日パラグアイ大使 Dr. Carlos Van Krasen 閣下及び当会会長 Sr. Jalei Garciaの両氏の送別会。大使は赴任し、会長は優秀な活動のため帰国研修員同窓会会長セミナーに出席する予定である。

1986年10月31日:

Club Deportivo de Puerto Sajoniaにて当会設立記念日祝賀会を開催し、その折に当会制作のビデオ、カセットを上映した。

1986年11月14日:

Ing. Juan Carlos Barrios 氏宅で会員多数及び友人の参加を得て親睦会を開催した。

1986年11月21日:

Ing. Juan Carlos Barrios 氏宅で夕食会兼ビデオ、カセット上映会を開催した。出席者は約30名だった。

9. パラグアイ元日本留学生会の会計

報告(1986年11月30日現在)

収入の部

現金預金—LLOYDS BANK	253,011
JICA寄付金	1,387,000
受け取り利息—LLOYDS BANK	98,262
会費収入	207,000
合計	1,945,273

支出の部

会運営費	1,084,400
事務用品	89,180
手数料	51,750
IGUAZU, AGRIEX, ITAIPU旅行費用	430,590
法人資格獲得費用(DECRETO NO.18.464/86)	99,000
会活動報告ビデオカセット制作費用	144,000

要約

収入合計額	1,945,273
支出合計額	1,898,920
現金残高	46,353Gs

以上報告する。於アスンシオン1986年11月30日

JALEI GARCIA (会長)

CESAR R. VELAZ (会計係)

会 員 一 覧 表

会員証番号	氏名
1	Ing. Horacio ABDALA
2	Arg. Carlos ARIAL
3	Dr. Arnaldo ALVARENGA
6	Dr. Ruben Dario AVILA
8	Dra. Elisa ANTOLA
10	Ing. Juan J. ASHWELL
12	Aldo Arel BOGADO
14	Ing. Juan Carlos BARRIOS
5	Dr. Miguel Aristides AGUILAR A .
19	Dr. Rolando BRIZUELA
20	Dr. Carmelo BLASCO
22	Ing. Pedro CALABRESE
23	Francisco CAMACHO
26	Lic. Maria E. COLLAR ORTIZ
27	Lic. Carlos H. CIBILS
26	Arq. Alberto DIEZ PEREZ
37	Prof. Dr. Antonio DUCROT
39	Dr. Desiderio ENCISO
42	Dr. Miguel ESPINOZA FRANCO
44	Ing. Hector FARINA BENITEZ
45	Dra. Maria FRESCO DE BLASCO
46	Dr. Magno FERREIRA FALCON
47	Florencio FERREIRA
48	Dra. Victoria FRUTOS
50	Jelei GARCIA
51	Dr. Anibal GAMARRA
52	Ing. Carlos M. GAONA
54	Dr. Rigoberto GAUTO
55	Lic. M. Stella GONZALES DE TORALES
56	Amilcar B. GODOY
60	Dr. Diego HAYES SARUBBI

62 Dr. Roberto BELOTO
 65 Lic. Noemi KUNZLE DE SARUBBI
 71 Merardo LEON
 72 Ing. Agr. Miguel A. LOPEZ
 76 Ing. Takao MORIYA
 81 Dr. Raul B. AVILA
 85 Dr. Eliodoro MELGAREJO IDAYAGA
 87 Jacinto MATTAUDA
 88 Sabino A. MONTANARO
 90 Epinafio NOGUERA GAMARRA
 93 Lic. Luz A. PEREIRA DE ROJAS
 100 Prof. Dra. Maria T. RIVAROLA DE VALIENTE
 104 Dra. Yolanda RICHER
 105 Dr. Francisco ROMERO
 111 Arq. Gustavo A. RAMIREZ ARCE
 120 Dra. Regina SERRA
 122 Lic. Maria Teresa SANTACRUZ
 125 Prof. Carlos SCORZARA FAVIO
 126 Dra. Elfrida de SALDIVAR
 134 Cnel. Med. Cristobal VALIENTE AYALA
 135 Lic. Daisy LOPEZ DE VALINOTTI
 143 Dr. Antonio VERA MARTINEZ
 145 Gilberto Isaac GODOY
 158 Candido NUNEZ
 159 Dra. Hilda J. BERNALALONZO
 161 Dra. Maria Angele BALMACEDA
 163 Dra. Gloria M. A. CACERES BOGGINO
 164 Dr. Mario MOREL PINTOS
 165 Dra. Noemi E. SALDIVAR DOCTERS
 170 Dr. Angel A. GIMENEZ M.
 171 Dr. Angel Maria GONZALEZ
 176 Hatsuji Nagai
 178 Dra. Ida VALINOTTI FIORE

181 Ing. Tomio HANANO
 182 Hector Raul VEGA ALMIRON
 183 Luiz A. ROJAS
 184 Roberto SALINAS
 193 Ing. Hugo HALLEY MERLO
 28 Concepcion CRISTALDO
 185 Dr. Luis A. VELY
 192 Lic. Romona ORTIZ DE VELAZQUEZ
 195 Dra. Mirta CASTELLANTI
 196 Vicente AZUGA
 198 Dr. Dario SELLITTI
 199 Dr. Carlos Alberto KNAPPS
 200 Ing. Agr. Geraldo C. LOPEZ ZARATE
 203 Ing. Juan MOLINAS
 204 Ing. Heran SOSA
 206 Gustavo ESPINOLA
 207 Dr. Adolfo GALEANO
 208 Dra. Eva GRANCE
 209 Dra. Estela RIVEROS
 210 Dra. Miguella BELTRAN
 213 Dra. Perla ROMAN
 217 Arq. Nilda JIMENEZ DE LA SOBRERA
 222 Alan ARCE
 223 Oscar TORRES
 224 Dionisio Antonio VAZQUEZ
 225 Abel Herminio ROMERO
 226 Ing. Luiz CATTEBECKE
 227 Gregorio Alberto GIMENEZ
 229 Oscar GONALEZ
 230 Alejandro BENEGAS
 231 Ing. Jorge RUIZ OLAZR
 233 Nidia GINI MEYER
 235 Antonio KASAMATSU

240 Arnaldo ARGUELLO
 241 Dra. Juana Agripina de SARUBBI
 242 Dra. Maria Ester de MARTINEZ
 244 Ing. Eduardo KISHI
 245 Arq. Venus de PATINO
 246 Jose Maria FLEITAS BELOTTO
 247 Luic Alberto LOPEZ CANETE
 248 Ing. Agr. Juan Carlos SCAVONE MONTBLBETTI
 249 Dr. Alberto IBARRA LEZCANO
 253 Lic. Nidia FIGUREDO DE ARIAS
 9 Prof. Amadeo AVALOS Centro Entrenamiento V.
 15 Prof. Roberto BATELLA
 17 Prof. Leandro BARRIOS
 25 Prof. Eugenio CENTURION RRODAS
 24 Prof. Eugenio CASELLI PORTILLO
 70 Prof. Alberto LARA NAVONE
 73 Prof. Pedro Nolazco AMARILLA
 78 Prof. Gualberto MENDEZ MENDOZA
 98 Lic. Jesus Maria PUERRA DEL PUERTO
 106 Miguel A. RUIZ DIAZ
 107 Prof. Fancisco POLLON AMARILLA
 112 Prof. Herminio RUIZ DIAZ
 118 Prof. Catalino RODIGUEZ
 119 Prof. Tomas SANTACRUZ BENITEZ
 121 Prof. Pablo Ruben SOSA
 123 Prof. Braulio SANTACRUZ BENITEZ
 138 Prof. Cesar Ramon VELAZQUEZ BENITEZ
 139 Prof. Rafael Bernardo VERA
 141 Prof. Arq. Juan E. FRANCO
 146 Prof. Juan Sinforiano DENIZ VILLASANTTI
 147 Prof. Silvio Angel VAZQUEZ CABALLERO
 148 Dr. Eusebio FARINA
 149 Prof. Cecilio MONTIEL ARIAS

- 150 Prof. Gregorio Narciso BENITEZ ALMADA
- 152 Prof. Jose Maria OJEDA DIAZ
- 153 Prof. Jose QUINTANA LEGUIZAMON
- 190 Prof. Alberto AVALOS
- 191 Ing. Agr. Higinio Evelio MOLINAS AVALOS
- 94 Dr. Flaviano OJEDA V.
- 187 Lic. Marta DUARTE

10. 創立10周年に際して

Lic. Daisy de Valinotti

時間. . . 今更ながらにとめども無く過ぎて行くその早さにただただ驚くばかりであります。気付いて見ると既に11年が過ぎて居ります。今を去る事11年前の1975年10月24日我々婦国研修員は当時の駐日大使であったDr. Desiderio Enciso閣下の訪問を受け、同大使の支援と激励の下にパラグアイ婦国研修員同窓会を設立するに至ったのであります。

それ以後多くの出来事がありました。例えば定款の作成とその変更。これらは婦国研修員各位の活動により広範囲に役立ち得る会にする為に是非とも必要なものでした。

又、現在では我が会は会員各位のたゆまざる努力によって内外を問わず広い範囲に且つ好意的に受け入れられる様になった事は喜びにたえません。

更に日本大使館、JICA、並びに我が国の日系社会一般の絶大なる御好意によって1987年に建設予定の人造りセンター内に於て当会専用の事務所を確保出来る見通しがつきました。

本年執り行われました「日本人移民50周年記念式典」に我が会が協力出来た事はこの上も無い喜びであります。これと併せて我が会が行いましたIguazuの日本人植地への親善訪問旅行によってパラグアイと日本の友好関係を更に確認出来たものと思えます。

本年10月には世界各国のうち最も優秀な活動を展開した8ヶ国の婦国研修員同窓会会長が東京で開催された会合に招待され、多大なる成果をあげたことを御報告いたします。

この11年間に我々が経験し得た全ての出来事を書き表す事はおよそ不可能かと思えます。しかしこの期間中我々が最大の愛情と熱意をもって会に接して来た事は紛れもない事実であり、今後とも大きくより幸せな会を実現する為に更なる努力を続けて行く所存で有ります。

全ての婦国研修員の皆様に我々が今味わっている喜びを共有するよう、即ち「パラグアイ婦国研修員同窓会」に参加するよう呼びかけたいと思えます。まだ会員でない皆様は是非御参加下さい!!!

ドウモアリガトウゴザイマス。

11. 帰国研修員同窓会会長セミナー

(於東京1986年10月13日-22日)

国際協力事業団(JICA)の招待を受けて1986年10月13日-22日の期間中東京で開催された帰国研修員同窓会会長セミナーに参加する事が出来ました。

現在世界の23ヶ国に「帰国研修員同窓会」が存在しその内10ヶ国が今回のセミナーに招待されました。我が会が今回開催されましたこのような重大な会合に参加出来た事は誠に光榮な事実であり、喜びにたえません。

今回の会合には下記の各国が参加しました(アルファベット順)。

アルゼンチン
ブラジル(サンパウロ)
フィリピン
インドネシア
ケニア
パプア・ニューギニア
パラグアイ
ペルー
シンガポール
スリランカ

今回のセミナーの最も重要な目的は一言で説明すると各国の「帰国研修員同窓会」間の横のつながり、これらの会とJICAの間の縦のつながりを強化する事にあります。JICAは各国に於て技術協力を実施するに際して「帰国研修員同窓会」が重要な役割を果たす物と位置付けて居り、今後これらの間の連携にますます注目していくものと思われます。

最新の資料によると1954年以来日本が開催している各種の研修活動において世界各国から60,000人以上の研修生を受け入れております。

この様に各国から集はった研修員は日本で多様な専門分野の訓練を受けた上で本国に帰国し、日本で習得した知識を情熱と責任感をもって駆使し、それによって各国の発展に大いに寄与しているのであります。

現在のところ我が会では偉大なる「日の出ずる国」においてその専門的知識を磨く幸運に恵まれた会員の数は487名にのぼって居ます。

今回開催されたセミナーの内容は非常に密度の濃い物でしかも興味深い物で有りましたが紙面の都合上ごく手短かに要約せざるを得ないのが残念ですがその概略は次の通りです。

- 一 各国の「帰国研修員同窓会」の活動の紹介。
- 一 各国の「帰国研修員同窓会」とJICAの協力関係のあり方の検討。

- 各国の「帰国研修員同窓会」の将来の活動の検討。
- 研修旅行。
- 結論及び提案。

今回のセミナーに関して特目立ったのは開会及び閉会式典が誠に厳かに且つ活気に満ちた物であり、JICAの最高首脳の熱意に満ちた真剣な発言が多く聞かされた事で有ります。

尚、このセミナーの総会に於て私は1975年10月24日に創立されて以来の我が会の活動内容について報告する機会に恵まれた事を会員各位にお知らせしたいと思います。

私の提出した報告書は全体35頁から成り、下記の事柄について詳細に述べた物で有ります。

- 会の組織：創立の経緯、組織形態、定款、会員の数及び名簿。
- 1986年度中に行った活動内容：財源、予算、収入、支出。
- 1987年度の活動予定。
- JICAへの提案及び提言。

又、この報告に関して特に其の一部として我が会及び会員各位の活躍の様子を21分間のカラービデオカセット資料の形にまとめて上映しました。この資料は英語版及びスペイン語版の二種類作成し、我が国の書く分野で活躍する帰国研修員の日常の様子を紹介したものであります。

このビデオカセット資料はJICA当局だけでは無く各国の帰国研修員同窓会会長からも非常に好評と賞賛的となりました。特に我が会だけが参加各国の内唯一ビデオカセットの形で報告を行いましたのでたいへん注目されました。このビデオカセット資料の取材編集を担当して下さった *Professora Daisy Lopez Caceres de Valinotti* 及び *Senor Hugo Sisa* の御苦勞にここで特に感謝致します。御二人共今後この分野で専門家として活躍出来ることと思います。

結論：

このセミナーは全ての参加者にとって今迄の経験を語り合いました将来の展望を更に広げる為に誠に有意義な催しで育った物の確信致します。

各国から参加した元留学生会会長は今回の会合の意義其の完な組織を高く評価すると同時にこの様な貴重な機会を与えてくれたJICAに深い感謝の意を表したものであります。

大統領令No. 18.464 -

「帰国研修員同窓会」と称する団体の定款を承認し法人資格を付与する。

於アスンシオン1986年11月17日

「パラグアイ帰国研修員同窓会」と称する団体の代表者Sr. Jalei Gcia が1986年7月29日に提出した申請(受付番号No.1009)に関して財務省監察局、会計監査院、国家監察院、内務省法務局の各当局が検討した結果、申請に従って其の定款を承認し法人資格を付与するもので有る。

パラグアイ共和国大統領は下記発令する物で有る

第1条 「パラグアイ帰国研修員同窓会」と称する団体の定款を承認し、民法第33条第5項、第45項1986年4月19日付きでVisitacion delos Angeles Martinez de Santacruz氏担当の公証人役場に登記された証書の内容に従って其の法人資格を付与するもので有る。

第2条 以上を通知し、官報に掲載し登記する事を命じるもので有る。

署名：ALFREDOS TORESSNER

署名：Sabino A.Montanaro

謄本。

6. 我が会の新しい定款

第1章 設立、名称、存続期間、所在地

第1条 日本で研修した経験の有るパラグアイ人の自由参加による文化社交団体を設立する。この団体は新規に日本への帰国研修員を経験し入会を希望するパラグアイ帰国研修員によって其の会員数を増やして行く物とする。

第2条 団体の名称は「パラグアイ帰国研修員同窓会」とする。

第3条 団体はこの定款に基づいて運営し、以下「会」と略称する。

第4条 定款の規定に基づいて会員が総会に於て特に会の解散を決議する場合を除き、会の存続期間は特に限定しないものとする。

第5条 会の所在地はアスンシオン市とし、国内各地に代表を設ける事が出来るものとする。

第2章 目的

第6条 会は下記の目的を有するものとする。

- a) 宗教、政治、人種とは関わり無くパラグアイの帰国研修員の親睦を計る事。
- b) パラグアイの帰国研修員が日本に滞在中に培った友好関係を保つ事。
- c) 会員各位の間並びに会員と日本の各種団体との間で文化的、専門的及び技術的催しを行う事。

第7条 これらの目的を達成する為に下記を含む各種の手段を利用出来るものとする。

- a) 会員の間で社交、文化、体育に関連した各種会合を開く事。
- b) 下記の出来事に関する記念行事を催す事：日本国天皇陛下誕生日、友好の日、当会設立記念日、年末。
- c) 会員及び家族の親睦を深める為に国内及び国外各地への旅行を行う事。
- d) 各国の類似団体との共同行事を行って日本との関係を深める事。
- e) 各専門分野で特に秀でた業績を挙げた会員を表彰する事。
- f) 日本の国家記念日には会の運営委員会画率先して出来るだけ多くの会員の賛同を得て日本大使に慶祝の意を表明する事。

第8条 会の目的を達成する為の有効な手段として購入、賃借、寄付、借入等の適当な方法で活動の為の場所を確保し、必要と成る什器及び図書を入手するものとする。

第3章 会 員

第9条 会員は帰国研修員経験を有するパラグアイ人のみとする。

第10条 会員は下記の権利を有するものとする。

- a) 会費の支払いを条件に会役員を選ぶ為に投票する事と投票される事。
- b) 総会に於て発言する事と投票する事。
- c) 会の運営に関して役員に要請及び提案を行う事。
- d) 必要と思われる場合に会を脱退する事。

第11条 会員は下記の義務を有するものとする。

- a) 期限内に会費を支払う事。
- b) 定款の規定及び運営委員会の決定を守る事。
- c) 会の総会に出席する事。
- d) 会の総会に於て投票する事。
- e) 総会に於て役職に選出された場合は其の職務を忠実に果たし、不可抗力を口実にこれを怠慢しない事。
- f) 会の目的を達成する為の行事に協力する事。

第4章 財 政

第12条 「パラグアイ帰国研修員同窓会」の資産は下記のものからなる。

- a) 会員の会費。

- b) 寄付、贈与等。
- c) 国内、国外の支援団体からの資金援助。
- d) 社交的、文化的な催しによる収益。
- e) 定款の規定に従った其のたの財源。

第13条 会費の金額は定例総会に於て決定し、其の支払いは半年毎に行うものとする。

第5章 記録及活動

第14条 運営委員会は下記の記録を作成するものとする。

- a) 総会議事録。
- b) 運営委員会会合議事録。
- c) 会員登録簿。
- d) 現行法に従った会計帳簿。

第15条 会員登録簿には会員番号、学歴、住所、入会年月日、身分証明書番号及び種類、日本入国日及出国日、同国における専攻分野を記載するものとする。

第16条 会の会計帳簿は下記の物から成るものとする。

- a) 資産台帳。
- b) 会計日報。
- c) 現金出納帳。

第6章 運営権限

第17条 会の運営権限は下記の者が有するものとする。

- a) 会員総会。
- b) 運営委員会。

第18条 会員総会はパラグアイ・日本両国の友好関係に尽力しているしかるべき人物の間から会の名譽会長及び顧問を選んで任命する者とする。

第1部 会員総会

第19条 会員総会は会の最高決定機関で有り、定例総会又は臨時総会として開催出来るものとする。会員総会が有効で有る為には現行法及び定款の規定に従って召集開催するものとする。

第20条 定例会員総会は下記の通り開催するものとする。

- a) 毎年7月最終日曜日迄に開催し、決算は会員総会開催日より一ヶ月以内に前もって行て置くものとする。
- b) 召集は運営委員会が開催日より15日以上前もって行う物とし、召集広告は当市の主日刊紙の一つに掲載するものとする。
- c) 運営委員会は議題を作成しこれは決算報告及び年度報告を含むものとする。

第21条 会員総会は下記の役割を有するものとする。

- a) 運営委員を選任する事。
- b) 運営委員会が提出する決算報告をよび年度報告を承認する事。
- c) 運営委員会が提出する其の他の議題を討議する事。
- d) 会員総会を代表して議長及び書記と共に会員総会議事録を承認署名する代表者を選出する事。

第22条 臨時会員総会は下記の通り開催するものとする。

- a) 運営委員会が必要と判断した場合又は会員の総数の20%以上から要請が育った場合運営委員会がこれを召集するものとする。
- b) 議題に含まれる事柄のみを討議する目的で随時開催出来る物とする。

第23条 定款の変更は臨時会員総会に於てのみ討議するものとする。

第24条 会員総会の決議は定款の内容変更及び会の不動産に関連する事柄を除いて単純多数決によって行い物とする。上記例外事項に関する決議は出席者の2/3以上の賛成によって行い物とする。又、まだ実行に移されて居ない決議事項の再検討に関しても上記と同様の賛成投票数を必要とする物とする。票数の集計に際して棄権は欠席と見なす物とする。現行法及び定款の規定に従って行った決議は全ての会員に対して拘束力をもつ物とする。

第25条 会員総会に於て決議を行う為に必要な最低出席は該年度の3月31日に会員登録簿に登録して有る会員数の半分以上を越えるものとする。又、臨時会員総会の最低出席数に関しては召集日に登録されて居る会員数を基準として計算するものとする。

第26条 召集広告には開催日時及び場所を明記し、出席数が達成された場合は所定の時間に開会する物とする。所定の時間煮出世奇数が達成去れない場合は1時間延期し、其のうえ最低出席者数が達成されない場合は出席者数戸は無関係に開会するものとする。

第27条 役員を選出及び個人に関連した議題の投票は無記名で行いものとする。運営委員会の報告内容の承認又は拒否に関する投票には運営委員は加わっては成らないものとする。同数票の場合は議長が決定し、定例会員総会の議長は運営委員が勤めては成らないものとする。

第28条 定例会員総会の議長は一般会員の間から選ぶものとし、書記は運営委員会の書記が勤める物とする。これらの者以外に出席する一般会員の間から2名の代表者を選び総会を代表して議長、書記共々議事録に署名せしめるものとする。

第2部 運営委員会

第29条 会の日常の運営管理代表業務は会員総会で選出する運営委員会がこれを担当するものとする。第30条 運営委員会には下記の役職を設けるものとする。

- 会長1名
- 副会長1名
- 議事録担当書記1名

- 会計係名
- 会計係補佐 1 名
- 正評議員 3 名
- 補欠評議員 3 名
- 正監査役 1 名
- 補欠監査役 1 名

正役員の脱退、死亡、辞職、職務停止、職務執行不能、2ヶ月以上の不在等の場合は前もって選出された補欠がそれを代行する物とする。但し、会長職に関しては必ず副会長がこれを代行する物とする。

運営委員会は役員及び一般会員の協力を得て特定の目的（例えば社交、文化、体育等）の貯めに作業部会を設ける事が出来るものとする。

第31条 他の公的又は私的機関に於て会の会員5名以上が在籍して居る場合、運営委員会は連絡業務の為に連絡員を任命出来るものとする。

第32条 運営委員会は事前に召集の必要無く毎月1回会合を開く物とする。又、会長ないし正役員が必要とみなした場合はこれ以外にも随時会合するものとする。

第33条 運営委員会開催の為に最低出席者数は5名とする。議長は会長とし、欠席の場合は副会長が代行し、これも欠席の場合は評議員が順に代行するものとする。運営委員会の会合で同数票の場合は議長が決定できる物とする。運営委員会の全ての決議は単純多数決で行うものとする。

第34条 運営委員会の担当する主な役割は下記の通りとする。

- a) 会員総会の決議事項を除く全ての契約を承認する事。これらの契約の金額は定期的に会員総会に於て決定するものとする。
- b) 定款の規定及び会員総会の決議を守り且つ守らしめる事。
- c) 定款の規定に従って会の発展に必要な全ての行為を行う事。
- d) 定例会員総会及び臨時会員総会を召集刷る事。
- e) 定例会員総会に提出すべき会計報告及び年度報告を検討、変更及び承認する事。

第35条 運営委員会の正員及び補欠の任期は2年とし、1期に限って再選を認めるものとする。

会 長

第36条 運営委員会の会長は法律上の会の代表者であり、特定の目的に関して運営委員会の正員に其の役割を委任する事が出来るものとする。

会長は下記の様な職務を担当するものとする。

- a) 運営委員会の議長を勤め、臨時会合が必要と判断した時又は定款の規定に従って召集が要請された場合はこれを召集する事。

- b) 会計担当役員共々小切手、手形、資産表、決算書、収支計算書等に署名する事。
記係担当役員共々公正証書、議事録、政府当局に提出する申請書、会発行の信書、運営委員会の議事録に署名する事。

副 会 長

第37条 会長の辞職又は職務遂行不能の場合は其の職務及び義務を代行するものとする。

書記係担当役員

第38条 書記担当役員は下記の職務を担当するものとする。

- a) 運営委員会の会合並びに会員総会の議事録を作成して各々の帳簿に記録する事。
b) 報告書及び召集書類を作成する事。
c) 定款に規定する諸々の書類を作成し、担当すべき職務を遂行する事。

渉外係担当役員

第39条 渉外係役員は下記の職務を担当するものとする。

- a) 会の文通業務を所定の期間内に行う事。
b) 会計係及び書記係の担当範囲外の書類に会長共々署名する事。
c) 会の渉外業務を担当する事。

会計係役員

第40条 会計係役員は下記の職務を担当するものとする。

- a) 会の運営、会計帳簿、金銭の出納を監視し、運営委員会に依って承認された支出及び投資を管理すること。
b) 決算書、年度報告書、資産表等の作成に介入し、定款の規定に従ってこれらに署名する事。
c) 一般的に言って会の現金授受に関する全ての事柄に参加する事。

会計係補佐役員

第41条 会計係補佐役員は下記の職務を担当するものとする。

- a) 会計担当役員の職務の遂行に密接に協力する事。
b) 会計係役員が其の職務を遂行不能の場合はこれを代行する事。

評 議 員

第42条

- a) 役員に欠員が生じた場合評議員は会員総会に於て得た得票順にこれらを代行する物とする。
b) 運営委員会に依って割り当てられた職務を遂行する。

“帰国研修員各位が偉大なる日本民族と培った友好関係を常に保ち続ける事。 . . ”

定款第2章 「パラグアイ帰国研修員同窓会の目的」より抜粋

JICA